

# かねざわ

第62号

平成29(2017)年8月

- (P-2) 【探訪】 「小田原城を巡る」 探訪実行委員会
- (P-3) 「谷津あれこれ」
- (P-40) 古文書で『奥の細道』と『芭蕉翁終焉記』を読む

## 目次

### 運営委員会からの報告

- 2 【探訪】 「小田原城を巡る」  
探訪実行委員会

### 学習会

- 3 第1回学習会 「谷津あれこれ」

- 10 第2回学習会  
室町時代Ⅰ 「上杉禅秀の乱」

- 16 第3回学習会  
室町時代Ⅱ 「永享の乱」

### 分科会からの便り

- 20 「寺社を巡る会」活動記録  
平成29年1回～3回

23 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 No.23  
代表 佐藤 晃

29 ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.18  
代表 江口正彦

34 「浮雲俳句会」抄録 No.38 代表 北野清市

38 パソコン何でも相談室【12】代表 林 洋

### 歴史研究

40 「古文書を読む会」 代表 真田雅行  
古文書で『奥の細道』と  
『芭蕉翁終焉記』を読む

### 行事予定

44 9月～11月



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>  
メー ル: [yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com](mailto:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com)

## 2017年度 探訪（第6回学習会）のお知らせ

### 『小田原城を訪ねて』 実施日：10/13（金）

今や定番となった秋の探訪のご案内です。  
 今年はいつもよりちょっと足を伸ばして、平成の大改修を終えた小田原城を探訪します。  
 小田原城は戦国大名の雄、北条氏が五代にわたって拠点とした天下の名城。  
 県内なのにまだ行ったことがないという方も結構いらっしゃるのでは。  
 今回は城内と城下町の香りが残る町並みを散策します。  
 案内は小田原ガイド協会にお願いします。  
 下記要領で実施しますので、多数のご参加をお待ちします。

### 『実施要領』

1. 探訪地 : 小田原城（城内および周辺地区）
2. 日時 : 10月13日（金）10時00分～15時 小雨決行  
 註1：班編成 12名程度ごとに班編成します。  
 註2：荒天等で中止する場合は当日朝6時45分までに、担当者が電話連絡するとともに“わ”の会ホームページに掲載します。
3. 集合時間 : 午前10時00分（厳守・受付開始9時30分）
4. 集合場所 : 小田原駅西口三省堂前
5. 持ち物 : 名札（着用）、昼食、飲料、雨具
6. 昼食場所 : なりわい交流館
7. 探訪経路 : 北条早雲公像→北条氏政・氏照墓所→幸田口門跡→大手門跡  
 →城内（馬出門→銅門→天守閣→常盤木門→報徳二宮神社）  
 箱根口門跡→ういろ博物館→なりわい交流館（昼食）  
 →松原神社→だるま食堂（のれんと味の博物館）  
 ※諸般の事情により、コースを変更する場合があります。
8. 費用 : 480円（天守閣、常盤木門入館料）申込受付時に徴収
9. 申込期限 : 9月29日（金）

不明な点は下記にご連絡ください

山腰策次郎 Tel045-701-8400 メールアドレス candis80543946@gmail.com

鶴岡重典 Tel045-785-6151 メールアドレス asahina5rou@gmail.com

第1回学習会 『谷津あれこれ』

“わ”の会 会員 伊澤 尚 氏

開催日：平成29年5月13日（土）

10：40～12：00

会 場：能見台地区センター

多目的室 A・B

講 師：“わ”の会 会員

伊澤 尚 氏



講師：伊澤 尚 氏

1、 谷津村はどこに

「やつ」とは？ 低地、谷、低湿地で「やち」「やと」ともいう。関東特に鎌倉・下総地方でいい、漢字で「谷」「谷津」と記す。

（筆者注）地名としての「やつ」の例

「谷」は鎌倉のおうきがやつ谷、釜利谷のみやがやつ谷、

きたやつ北谷など。

「谷津」は小田原市谷津、習志野市谷津など各地にある。

PowerPoint で映した金沢八景要図、六浦・金沢の旧地形概要図で位置や地形を説明。

平潟湾の瀬戸橋から北は金沢文庫駅、釜利谷の赤井、手子神社下まで入り込んだ内海(内川入江)となっていた。現在の泥亀や大川一帯にあたる。

谷津村はこの内海に突き出た君ヶ崎と白井崎という二つの岬に挟まれた奥の低地と南を除く三方を囲む低い山から成っていた。その形状から谷津と言われ、土地面積は広いようだが

利用価値のある土地は狭い。そのためこの村は古くから人口も少ない寒村であった。

東に柴村、南に寺前村、西に釜利谷村、北に富岡村があり、寺前村が海沿いに平地でつながる他は山越へて行かなくてはならなかった。谷津村の範囲は現在の町名で言えば谷津町の他、西柴、片吹、堀口、能見台の東南部で横横道路の南側の能見台5丁目、能見台の森となる。

## 2、村を通る街道・保土ヶ谷道につて

瀬戸神社から六浦や朝比奈を通して鎌倉へ向う道を「かまくらみち」、寺前村や谷津村を通して保土ヶ谷へ向う道を「ほどがやみち」と言い、鎌倉や保土ヶ谷の方からはどちらも「かなざわみち」と呼ぶ。瀬戸橋が完成する前の鎌倉道は朝比奈から釜利谷、谷津を通して寺前に至っていた時もあった。

鎌倉道は六浦、朝比奈に、保土ヶ谷道は洲崎、町屋、寺前とそれぞれ街道沿いに由緒あるそして現存する寺院が幾つもあるのに反して谷津村には現在寺は無く、明治以前に永泉院とか能見堂の地藏院があったという記録が残っているだけである。

『新編武蔵風土記稿』を元に保土ヶ谷道を辿る。瀬戸神社を出て瀬戸橋を渡り洲崎村に入る。「憲法草創之處」の碑(昭和10年建立)を左折すると洲崎神社、龍華寺が、町屋に入ると安立寺、天然寺、伝心寺がある。すぐ北側にある寺前(金澤)八幡神社で道は左右に分かれ、保土ヶ谷道は左に行き君ヶ崎に通じる(旧・国道16号線を180m程行ってから右の小道に入る)。八幡神社を右に行き、500m程坂を上った右側に薬王寺があり、突当りが稱名寺の赤門である。赤門前を西に少し下ると小祠・子の権現社があり、さらに行くと先程の寺前から来た保土ヶ谷道と合流する。この合流点(君ヶ崎からは東に150m程入った三叉路)に「右路：寺前神社へ、左路：子の神社を経て称名寺赤門へ」「是よりしよふみょうじ、かまくらすく道」と記された『辻の道標』があったが、現在は赤門左脇

に移設されている。

君ヶ崎には君ヶ崎稻荷があり、ここから谷津村になる。500m程北上して左折し谷津川を渡ると碑高60cmの『谷津の道標』があった。表面は「右能見堂保土ヶ谷道」、右側面に「此方江戸」、左側面に「天保十亥年六月口日願主光明院」と記されている。2016年12月設置場所がここから北方100m、染井公園の南西の隅に移された。

今はない道標を右(北)へ50m程行き道沿いに左(西)へ20m行った所に3基の庚申塔(文字塔1基、刻像塔2基)がある。中央の笠付角柱型刻像塔の正面は雲台に乗った一面六臂の青面金剛と下部に「聞かざる」が、右側面には「貞享四丁卯天十二月十五日」の文字と下部に「言わざる」、左側面に「奉造立庚申待為二世安楽」の文字と「見ざる」が彫られている。さらに台石の右端に「永泉院」の文字が刻されている。

ここから道なりに150m程行った所が六国峠ハイキングコースの登り口である。昔、永(栄)泉院はこの近辺にあったらしい。保土ヶ谷道はこのハイキングコースを辿る。100m余り登った左側に馬頭観世音、百番観音塔、道造供養地藏塔の三基の石仏が安置されている。さらに500m程で能見堂跡に着く。かつて金澤八景の美しさを世間に広めた絶景の景勝地である。場所は現在、町名が「金沢区能見台の森」となっている。享和3年(1803)に江戸庶民によって建てられた石碑『金澤八景根元地』が残っている。「新編武蔵国風土記稿」

や「小泉家文書」の内容による能見堂のいわれ、かつての擲筆山地蔵院、心越禅師、筆捨ての松等々の詳しい説明や江戸名所図会や歌川広重の絵の紹介がなされた。現在地蔵院跡地には「根元碑」の他に散逸していた「武蔵国金澤碑」「美山句碑」「鈴木宗珉居士の墓」「一方かすみの句碑」「丸井一堂君之碑」の石碑が集められ、説明版も設置されて

いる。

(筆者注) \*保土ヶ谷道の能見堂の先は磯子区中里、南区大岡、蒔田を経て保土ヶ谷に至る。

\*上記に出てくる洲崎・町屋を含め寺院や神社、各種石碑についての詳細な説明は資料参照。

\*文中の距離は筆者が国土地理院の地図より計測したものである。

### 3、地誌に見る村の変化 主に「小泉家文書」等を参考に

文献に出てくる「谷津村」は少ない

- ① 寛文 2 年(1662) 谷津村が久世大和守広之の領地となる。
- ② 貞享 2 年(1685) 『新編鎌倉誌』では谷津にはふれず能見堂についての記述がある。
- ③ 天明 4 年(1784) 寺前村山田某が大沢新田(大沢は谷津村の字名)を造成する。
- ④ 天保元年(1830) 『新編武蔵国風土記稿』に「谷津村」の項があり戸数、範囲、地形、字名、寺社、産物などについて書かれている。なお「寺前村」「町屋村」の項にも谷津の事項が混ざっている。

以上の程度で谷津についての記録は少なく、話題となるようなものは能見堂だけである。

江戸時代中頃から明治の初期まで谷津村の名主を勤めた小泉家に残されたお触書、村高帳、年貢納帳・受取帳など 110 点からなる「小泉家文書」がある。内田四方蔵氏等が解説・編集して昭和 60 年に発行された『小泉家文書 上・下』に細かいことが書かれている。

この文書等をもとに谷津の変化をしてみる。

年	人口	戸数	石高	出典など
正保年間 (1644~1648)			118石(うち米57%)	武蔵田園簿
元禄 15 年(1702)			121 石 3 斗 1 升	元禄郷帳
文化 13 年(1816)	124(男 56、女 69)	23	121 石 3 斗 1 升	小泉家文書
文政 11 年(1828)	124(男 59、女 65)	23		小泉家文書
天保 5 年(1834)	117(男 62、女 55)	22		小泉家文書
嘉永 5 年(1852)	117(男 59、女 58)	22	121 石 3 斗 1 升	小泉家文書
明治元年(1868)	146(男 73、女 73)	22		金澤の 100 年
明治 6 年(1873)	149(男 81、女 68)	25	124 石 4 斗 8 升 8 合	横浜市史・金澤の 100 年
明治 16 年(1883)	161(男 79、女 82)	27		金澤の 100 年
大正 7 元年(1918)		56		石川武氏記録
昭和 14 年(1939)	463(男 231、女 231)	98		金澤の 100 年
昭和 28 年(1953)	3199(1668、1451)	690		区勢要覧 昭和 28 年版
平成 17 年(2005)	4720(2377、2343)	2106		区発行統計要覧
平成 28 年(2016)	4484(2239、2245)	2166		区発行統計要覧

小泉家文書添付の「明治6年谷津村絵図」を元に講師が「谷津村耕作地一覧表」を作成し講演資料に掲載している。田畑総計は1町5反1畝24歩（15,028㎡）であり、谷津村所有の延合計村民数は34名、戸数25戸では村全体の田畑を耕作できず、田畑の51.4%が町屋、洲崎、寺前など他村の人の所有となっている。谷津村が江戸時代から明治中期までほとんど戸数・人口および農業規模に変化のない小さな寒村であったことが分かる。明治に入って横須賀に鎮守府が設置され、海軍工

廠が出来、国道16号線が通ると人口が漸増してくる。昭和になると京浜急行が開通し、金沢区内及び近辺に軍需工場及びその下請け工場が出来て人口がさらに増える。戦後は戦災を受けなかった事もあり、戦災地域からの避難者や海外からの引揚者で世帯・人口が急増した。昭和40年代からの高度成長期に、狭い谷津町も田畑及び山林が宅地化され、平成10年代に人口はピークを迎える。最近は少子高齢化のためか減少傾向にある。

#### 谷津村から谷津町への行政の変遷について（小泉家文書より）

（筆者注 話は無かったが資料より抜粋し追記）

- 明治元年(1868) 神奈川県設置 谷津村は久良岐郡の第二区六番組に所属(後、七番組)
- 明治17年(1884) 町屋村の戸町役場のもと谷津村となる。久良岐郡谷津村。
- 明治22年(1889) 金沢村に入る。(金沢区全体が六浦荘村と金沢村となる)
- 大正15年(1926) 金沢村が金沢町となる。
- 昭和11年(1936) 六浦荘村と金沢村は横浜市に合併し磯子区に属す。金澤谷津町となる。
- 昭和21年(1946) 頭に冠した「金澤」を取り「谷津町」となる。磯子区谷津町。  
同時に堀口、片吹、西柴等も独立の町となる。
- 昭和23年(1948)5月15日 金沢区が磯子区から独立し現在に至る。金沢区谷津町。

#### 4、 谷津のあれこれ 村の文化・風土について

- (1) 保土ヶ谷道の所で出てこなかった建造物や石碑
- ◎ 白井館 角田武夫氏が描いた白井崎、塗桶山の絵を映して、白井館と谷津浅間神社の話。白井館と金澤温泉は金沢文庫駅の西側に明治末から昭和初期まであった料理旅館であり大衆浴場であった。金澤温泉は金沢七井の一つ「白井」の冷泉を沸かした鉱泉で明治40年に公布された温泉分析表も資料に掲載されている。
- ◎ 谷津浅間神社 天保7年(1836)の火災で記録が消失して創建などのいわれは分からないが、『新編武蔵風土記稿』にも出てくる。祭神は木花

- 咲耶姫尊で安産の神として崇められてきた。神社の社殿、鳥居、祭りの様子、神社からの眺めなど紹介。長い石段を登った境内の左側に第六天神社も祀られている。
- ◎ 阿弥陀堂 元は谷津町44に存在した。時期など詳細は不明。現在、跡地に谷津町内会館があり、阿弥陀像は町内会館の建物の中に祀られている。会館の入口に「阿弥陀堂跡」の石碑がある。
- ◎ 谷津関ヶ谷不動尊 元は関ヶ谷最奥の「滝」にあり「滝の不動」とも言われた。昭和62年能見台団地開発に伴い現在の能見台の森、六国峠ハイキングコースの東側下に移され新築された。遷

座記念の石碑がある。谷津町の人々によって管理され、毎年初不動などの祭りも執り行われている。

◎ 太寧寺 片吹にある臨済宗建長寺派の寺。山号は海蔵山。元は六浦・瀬ヶ崎にあった。源範頼の菩提寺であり小川笹船（江戸時代の医師赤ひげのモデル）の墓があるので有名な古刹である。昭和18年(1943)海軍の施設拡張のため強制移転させられた。本尊の薬師如来立像（俗称「へそ薬ある「天照皇大神宮」の石碑

\*片吹入口にある金沢七井の一つ「染の井」の跡、石造の囲いが残っている。

## (2) 谷津村にあった<sup>アザ</sup>字名

「小泉家文書」や「図説かなざわ」から拾い出し、照合して講演資料に掲載。主なものを挙げておく。

榎戸、片吹、行田、染井、関ヶ谷、反町、稲荷谷、堀口、荻野、御所ヶ谷、大澤などがあり、それぞれの字の中に小字があった。

## (3) 谷津村の屋号

(大正7年 石川 武氏 作成地図より)

谷津村で多い苗字の主だったものは石川、小泉、加藤、大塚、荒井、榎本、安田、池田などでこれらを区別するのに屋号を使った。先祖の名前や家の所在地、仕事などに由来する。

石川（のうけんどう、やすべいさん、しんや、でぐち、おちゃちゃん）

小泉（わき小泉こざえもんさん、しちべいさん）

加藤（しょうゆや、おけやさん、はなや、にいや、すげさん、いそだいく、わだおとさん、かつざえもんさん）

大塚（くるまや、やえむさん、でんちゃん、かしや）

荒井（ころま、へいじろうさん、とくさん）

榎本（どうのせ、おかやき、かんそうさん、くめさん、ぶんえもんさん）

師）は像高151cmの堂々としたもので脇侍の日光・月光両菩薩を従えている。何れも市指定文化財である。昔は十二神将立像もあったが現在は奈良国立博物館にある。

## ◎ 石碑などの紹介

\*釜利谷との境、富士坂（浅間神社南側の切通）にある馬頭観音、地藏菩薩、五輪塔の3体の石像

\*浅間神社の尾根続きにある薬王寺所有の榊林に安田（しょば（塩場の意）、さだきちさん、じどうまい、ひござえもんさん）

## (4) 方言

石川 武氏が記録されていた谷津周辺で話される方言が多数資料に掲載されているが、『びやくかくむ⇒崖が崩れるの意』等2,3の紹介で終わった。

（筆者注）\*掲載された方言は谷津村特有というより金沢や横浜の農・漁村で広く使用されているようです。

\* (3) (4) で出てくる、石川 武氏は屋号「しんや」の石川さん。長年にわたり谷津町内会長や浅間神社氏子総代を勤められ、町政は勿論、浅間神社の整備・修復、関ヶ谷不動尊の遷座など種々の事業で中心となって関わった方です。事業記念等の石碑には殆ど名前が刻まれている。

講演資料は30ページと内容が豊富で写真や絵も多数入っています。個々の項目の詳細は資料をご覧ください。

（相川 勲 記）

## 2017年度第1回学習会アンケート集計と実施報告

### 1. アンケート集計

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	69	6	75(73.5)	0	75	
	女	9	2	11(61.1)	0	11	
計		78	8	86(71.7)	0	86	41(52.6)

### 2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
24名	12名	3名	1名

※チェック無し 1名

- ・面白かった
- ・分かりやすい説明でした
- ・伊澤さんの精緻なお話に感銘を受けました
- ・惜しむことは内容の多さに比し、時間が短かった、御自分の住む地域をこれ程迄に詳細に多方面に渡って調査されたことに感服する、労作ですね
- ・時間が足りない(細かく良く調べてあると思う)
- ・谷津に付いて奥深く研究され、すばらしかったです
- ・よくここまで調べられました(3)
- ・詳細に調べられています、ご苦労様です
- ・ご自身で歩かれたと思われませんが、説明が分りやすく、説得力があった
- ・これだけの資料と考えをまとめて驚きです、大変な労力です
- ・多くの資料を使って説明頂きありがとうございます
- ・ていねいなレヂメで今後参考になります
- ・谷津に関する膨大な資料を編さんされレヂュメ化したご苦労に敬意をいたします、「谷津」についてはこれで理解できます
- ・自分の住まいの近くの歴史、いわれ等殆んど知らなかったことを知らしめてくれた
- ・谷津の意味が良く判った
- ・住民として土地の事が良くわかりました
- ・身近な土地の今と昔をよく調べてあり、興味深く聞いた
- ・これだけ詳しい郷土史を伺ったのは大変感銘を受けました
- ・地元の歴史を興味深くお聴きしました
- ・谷津村のことがよくわかった、今まで不思議に思っていたことがわかってよかった
- ・谷津あれこれ、金沢に住んでいても町の由来がなかなか、わからないので今日話は大変良かった、又話し方がよかった
- ・身近な場所なので興味深かったです、写真をもとに説明されたのが良かったです
- ・谷津町の地形や親展、発展の状況がかなりわかった、変化の度合いが大きい地の過去から現在まで知る機会が出来て良かった



- 谷津のことをしらべたときに置き忘れたことからもおしえていただきました。感謝しています
- 大変苦勞して調査されたことに敬意を表します。深く歴史をさぐっていくと面白いことがよく分かりました
- 長年住んでおられ、良く理解出来ました、楽しく聞かせていただいた
- 資料もていねいに作成して下さい、それに添ってスライド等を活用し、私には大変理解し易く、有り難かったです
- 地元とはいえ、ことこまかに、史実に基いて一つ一つをこまかく調べ上げられたに敬意を表します
- 資料の準備が敬服、次への興味を持たせて、郷土歴史の面白さを引きつけた
- 知らない部分が大部分あった
- 地元の歴史を具体的に解説頂き大変参考になった、但し話の内容が飛びトビになっており、話しの間中以降はわかりにくくって興味が薄れてしまった
- テーマはおもしろいが話が飛び、とりとめがない、ポイント集中でお願いしたい
- 谷津をこれ程細くお調べ下さり、ゆっくり又、読み、古地図ともあわせてみたいと思います、本当に谷津あれこれでした
- 資料、ゆっくり読ませていただきます

### 3. 伊澤講師に希望する講演テーマについて

- 後半が急ぎ足になったので、もう一度ききたい
- 再度、話しをする場がありましたら続きをお聞きしたい
- 細かく良く調べられ、20周年に1部が紹介される事を期待しています
- 谷津の昭和史を紹介願いたい
- 谷津を含めた鎌倉時代の住民の暮らし
- 金沢区全般についての考察を数回に分けて講座を
- 中世の金沢地区について
- 地元のテーマ

### 4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
18名	12名	0名	11名

- 運営委員のみなさんの配慮でよい講座となりました
- スムーズでした
- 本年の総会できめた年間計画が良く、期待します
- 会の運営状況が良く判りました、会の進行もテキパキされていて、皆様の各々の活動も深かくなって来ている事が理解されました
- 空調をよろしく、あつくてつかれました
- 「分科会の報告・計画・勧誘」に時間をかけすぎる(毎年のことだが少しも改善されていない)

### 5. “わ”の会について

- 金沢の歴史について(今日みたいな)
- 今年度もがんばって下さい 期待しています

以上

第2回学習会

室町時代

I

## 『上杉禅秀の乱』

開催日：平成29年6月17日（土）

13：30～16：00

会場：金沢地区センター

講師：国際日本文化研究センター

助教 呉座 勇一 氏



講師：呉座 勇一 氏

### 【概要】

今回は国際日本文化研究センター 助教 日本史史料研究会主任研究員 呉座勇一氏による『室町時代の関東の戦乱』の第1回として「上杉禅秀の乱」についての講義を受けた。

講義は、用意されたレジュメ、地図、系図等により、講説を述べられ、その知識・内容の豊富さ、深さ、そして内容はまったく厭きの来させないものであった。（プロジェクタースクリーン、黒板の使用がまったくなかったことは初めてではなかったか？）

#### ◎鎌倉府とは

南北朝・室町時代は京都が主であり、関東（東国）はマイナーな地であった。この時代、関東に「鎌倉府」という広域行政機関が置かれていたが、それさえ知る人が少ない。また、南北朝・室町時代の関東の支配は室町幕府が直接統治したわけではなく、この鎌倉府を通し支配していた。鎌倉府の支配は関東八国の相模、武蔵、安房、上総、下総、上野、下野、常陸と甲斐、伊豆、後には陸奥、出羽に及ぶものであり、その政治的位置は幕府と守護との間にあった。

室町幕府のイメージとしては、強い守護大名の連合に担がれた弱い将軍といわれていた。しかし、近年の研究においては、有力守護を政治に参加させつつも、主導権をにぎり、実は力を持っていたといわれている。何といても室町幕府は、南北朝を終わらせ、その後「応仁の乱」が起きるまで半世紀以上にわたり「室町の平和」といわれる平和な時代を築いた。こんな平和な室町時代において、鎌倉府の支配下の関東では戦乱が相次ぎ、「平和」と言える状態ではなかった。本講座では、鎌

倉府の崩壊につながった「上杉禅秀の乱」、「永享の乱」について、最新の研究成果を踏まえ、

解説を行う。

「鎌倉府」とは何か?というところ、

- 室町幕府が東国支配のために鎌倉に設置した広域行政機関。
- 管轄国：関東八カ国に伊豆・甲斐。後に陸奥・出羽も加わる。(地図「鎌倉府管轄国(田辺久子『関東公方足利氏四代』)」にて確認)
- 前身：建武政権期の鎌倉將軍府。足利直義が事実上のトップ。足利尊氏は京都に。
- トップ：足利義詮→足利基氏→足利尊氏(將軍)→足利基氏(表「將軍・鎌倉公方・執事・管領の関東在留期間と鎌倉府の時期区分(峰岸純夫『足利尊氏と直義』)」にて確認)。以後、基氏の子孫が鎌倉公方を世襲。(足利氏系図(山田邦明『室町の平和』)にて確認)
- 補佐役：斯波家長→高師冬・上杉憲頭→仁木頼章(幕府執事)→畠山国清→高師有(以上、関東執事)→上杉憲頭(関東管領)。以後、上杉氏(山内 or 犬懸)が関東管領の地位を独占。(上杉氏系図(山田邦明『室町の平和』)にて確認) 関東管領は鎌倉公方の下、No.2であり、公方の補佐役であるが、室町幕府に任命され、幕府との交渉を担った。このため、將軍と鎌倉公方が衝突、対立すると、管領はどうすればと?、板挟みの立場に置かれた。

#### ◎「上杉禅秀の乱」の概要

応永16年9月に鎌倉公方足利満兼の死去により、嫡男で12歳の幼い持氏が鎌倉公方に就くが、応永17年8月に持氏の叔父の足利満隆に持氏に対する謀反の噂が流れ、持氏は関東管領である上杉憲定(山内上杉氏)邸に避難するが、満隆謀反はデマだとわかり、9月には持氏は御所に帰還する。しかし、若年の持氏が、指導力が発揮できず、政治を行えない中、上杉憲定と足利満隆・上杉禅秀(氏憲)(犬懸上杉氏)の間で権力闘争が発生し、結果、足利満隆・上杉禅秀が勝利し、上杉憲定が関東管領を辞任し、後任には上杉禅秀が関東管領に就く。(これらが「満隆騒動(生田本『鎌倉大日記』『喜連川判鑑』)」といわれる)

応永22年4月、上杉禅秀の家臣の越幡六郎が何の罪かわからないが罪によって所領を没収される。禅秀は公方持氏に越幡を赦せと赦免を願い出たが、持氏は拒否。また、『看聞日記』によると、禅秀が持氏の母と密通したという噂を持氏が信じ、後にデマだと分かるも軋轢は残った。同年5月に禅秀は関東管領を辞任、失脚し、後任に上杉憲定(山内上杉)の子の憲基が就き、山内上杉氏は成長した足利持氏を取り込み、足利満隆・上杉禅秀に反

撃する。(『鎌倉大草紙』(呉座氏による『同』巻之二の一部を読み渡す))

応永23年10月2日、禅秀は足利満隆と共に挙兵、決起し、足利持氏の御所を急襲する。持氏は御所を脱出し、佐介(佐助)にある上杉憲基邸に入る(地図「武家の古都・鎌倉めざせ!世界文化遺産MAP」)。10月6日、鎌倉化粧坂・佐介で足利持氏・上杉憲基と満隆・禅秀の両軍が激突、持氏方が敗北し、持氏、憲基は鎌倉を脱出、逃げ延びる。持氏は箱根を経て室町幕府管轄の駿河に入り、守護の今川範政の保護を受ける。憲基は一旦守護分国の伊豆に逃れるが、禅秀方の追撃を受け、一族の上杉房方(越後上杉氏)が守護を務める越後に逃走する。(『鎌倉大草紙』)

この「上杉禅秀の反乱」に対する室町幕府の対応は、10月13日に禅秀の反乱についての情報が京都に届く、10月16日に持氏、憲基の自害の報告が入り、幕府に緊張が走ったが、後に無事であるとなり、自害は誤報であると判明した。10月29日、室町幕府四代將軍足利義持が諸大名を招集し、どう対処すべきか、対応策を協議する。義持の叔父である足利満詮は、持氏は義持の烏帽子子で

あり、見捨てるわけにはいかない、そして禅秀が関東を平定したら幕府に対しても反旗を翻す恐れがあり、勢いをつけさせてはいけない等の理由から、持氏援助、禅秀討伐を進言し、義持はこれに賛成し、今川範政、上杉房方に持氏支援を命じる。(『満濟准后日記』『看聞日記』)

持氏方の反攻は、禅秀の反乱の後、2か月以上経って、12月18日および22日、関東管領上杉憲基が自身の守護でもあった上野国内で禅秀方の岩松満純を破る(『鎌倉大草紙』、円覚寺文書など)。12月25日、幕府の命を受けた駿河の守護今川範政が禅秀方に許してやるぞと降伏を勧告(『鎌倉大草紙』)。同日、持氏方の二階堂・豊島氏らが入間川で禅秀方を破る(『鎌倉大草紙』(読み渡す)、豊島宮城文書など)。12月末、足利持氏、相模

#### ◎「上杉禅秀の乱」の原因

上杉禅秀の乱とほぼ同じ時期に足利義持の弟、義嗣が怪しい動きをし、応永23年10月30日に義嗣が突然出奔する。義嗣は美少年でもあり、晩年の足利義満がもっともかわいがっていた子息であり、あまりに急速に官位を昇進させたため、「義嗣が義持に代わって義満の後継者になるのでは」との噂があった(『椿葉記』)。応永15年5月6日に義満が急死、幕府の重鎮・斯波義将の判断で義持が家督を継いだ。以後も義嗣は順調に昇進を遂げ、義持は良くは思っていなかったが、表面的には良好な関係であった。そんな時期での義嗣の突然の出奔であり、幕府は震撼した。これが義嗣事件である。義嗣の出奔の理由については、学界でも議論がある。①謀反を起こすために京都を脱出。「禅秀の乱」が起きている時に義嗣が出奔したのは禅秀と組んだのでは？。②謀反発覚、または謀反の罪をでっちあげられて粛清されることを察知して逃亡。また、幕府が乱に乗じて義嗣を殺そうとしたのでは等。なお、義嗣は幕府により捕らえられ相国寺・林光院に幽閉され、禅秀の乱の鎮圧後に処刑された。

禅秀の乱においての禅秀と義嗣の関係にお

国懐島(現在の茅ヶ崎市円蔵)に着陣。このように持氏、憲基のそれぞれの避難先の駿河、越後から、西から北からと鎌倉に進攻した。(図「応永23年12月～24年正月 持氏方進攻図」平凡社『日本歴史地名大系14 神奈川県地名』付録「神奈川全図」を縮小して使用)

応永24年正月の相模藤沢合戦、相模飯田原(現在の横浜市泉区上飯田町・下飯田町)合戦、相模瀬谷原(現在の横浜市瀬谷区)合戦で禅秀方が粘りをみせて勝利(『鎌倉大草紙』、畑田文書など)。持氏方は一旦退却。幕府が持氏を応援、圧力をかける。正月9日の第2次相模瀬谷原合戦で持氏方が勝利、翌10日に鎌倉を攻略し、禅秀、満隆らは自害、禅秀方は滅亡する。(『鎌倉大草紙』、『鎌倉大日記』、円覚寺文書など)

いては、義嗣は禅秀の乱があったので怖くて逃げた(『看聞日記』)。また、「義嗣卿より御帰依の禅僧をひそかに鎌倉へ御下しありて、上杉入道禅秀を御かたらひ有ける」(『鎌倉大草紙』)等。学界研究者においても、義嗣事件は謎に満ちており、義嗣が禅秀と通じていたにしても、10月2日の乱と10月30日の義嗣の出奔はいかにも時期を逸しており、発見のされ方もお粗末である。一方、禅秀の立場から考えても、あわよくば幕府の援軍が期待できたのに、あえて義嗣と組む必然性はない。実際、義持が持氏と禅秀のどちらに支援するかは微妙であった。禅秀が義嗣を誘った可能性は極めて低い。(以上、桜井英治氏) 禅秀らが反義持の立場の義嗣とあらかじめ通じていた可能性は低く、足利満詮の意見で持氏援護、禅秀追討を決定の直後の義嗣の出奔は禅秀らとの連絡していたため追討されるのを逃れたというより、むしろ、持氏との連携を断たれ、進退窮まったのではないか。(以上、山家浩樹氏) 義嗣・満隆(禅秀)連携の有無にかかわらず、仮に義持が満隆を支持したとすれば、それは自ら嫡庶秩序を崩壊し、義持自身の正統性を否定することになり、義嗣によ

る篡奪を正当化され、義持自身が危うくなる。  
(以上、植田真平氏)

禅秀の乱の政治的背景については、古典学説：鎌倉府内部の山内・犬懸両上杉氏の権力闘争(渡辺世祐氏)。階級闘争史観：下からの農民闘争の圧力、上からは鎌倉府・伝統的豪族層(有力武士)の圧迫、を受けていた国人層(関東の中小武士)が矛盾打開の好機として禅秀のもとに結集蜂起。(永原慶二氏) 東国政治史の進展：伝統的豪族層はむしろ国人層と共に禅秀与党に。鎌倉公方権力の絶対化に伴う東国武士への抑圧・統制への反発から蜂起。一方、「一揆」などの新興勢力は伝統的豪族層・国人層との対立関係から持氏方につく。(佐藤博信) 政権構想の対立：鎌倉府に

#### ◎「上杉禅秀の乱」の影響

禅秀方勢力の再評価としては、結果的には反乱が失敗したため、禅秀らへの評価は低かった。(以上、通説) 鎌倉府に対する数多くの反乱のうち、反乱軍が鎌倉を一時的とはいえ占拠できたのは上杉禅秀の乱だけで、すごいことである。(以上、山田邦明氏) 応永23年10月中旬から12月中旬までの2ヶ月間、足利持氏方の軍事行動は軍忠状をみても行われていない。足利満隆・上杉禅秀のクーデター政権が関東の実効支配に成功。東国武士たちは満隆を鎌倉公方として認めている。(以上、植田真平氏) 東国武士が満隆を鎌倉公方と認めたことに、持氏はショックを受け、乱後の持氏の行動に影響あたえたか？。

乱後の政治情勢としては、鎌倉公方に復帰した足利持氏は、禅秀与党の討伐にこだわり、

よる専制支配確立のため東国武士への圧迫を強める鎌倉公方・山内上杉氏(強圧派)と、姻戚関係構築など東国領主層との協調を重視する犬懸上杉氏(宥和派)との対立。(市村高男) 近年の研究：持氏方・禅秀方のいずれも、特定の階層や派閥を代表しておらず、政権構想の対立は認めがたい(表「持氏方・禅秀方構成一覧」)。(植田真平氏) 大まかな傾向として、北関東の伝統的豪族層をはじめとする東国の有力武士の多くが禅秀方についたのは否定し難いのでは、グルーピングが困難なのは、勝ち馬にのるような付和雷同が多かったからにすぎない。大義名分なくして、これだけの反乱軍は組織できない。東国武士の自立を大義にしたのではないか。(呉座勇一氏)

戦乱の幕引きを急ぐ幕府と対立。幕府は禅秀与党を「京都扶持衆」として庇護し、積極的に軍事行動を展開する持氏を牽制するが、関東への軍事介入を躊躇っているうちに、京都扶持衆は鎌倉府軍によって各個撃破される。足利義持は関東討伐を決意するが、応永30年11月末に足利持氏の謝罪の使者が上洛、翌年2月に、足利荘など関東にある將軍家の所領の返還、幕府による甲斐守護任命(武田信重)の承認などの条件を鎌倉公方足利持氏が認めることで、和睦、戦争は回避された。足利持氏は一定の譲歩を強いられたが、禅秀与党の掃討に成功したことは大きな成果となった。この成功体験が、やがて持氏をさらに暴走させることになる。

(柴崎 幸治 記)

## 2017年度第2回学習会アンケート集計と実施報告

### 1. アンケート集計

出席者	一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	63	6	69(67.6)	3	
女	9	2	11(57.9)	4	15	51(64.6)
計	72	8	80(66.1)	7	87	

## 2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
26名	21名	3名	1名

- 高校の日本史ノートでは半ページくらいで過ぎた上杉禅秀の乱を細かく見ることが出来て楽しかったです
- ありがとうございます
- レジユメが簡潔に作られており、講演が追い易かった。声が大きく話のはっきりと聞き易かった
- 非常に解り易かった
- タイムリーな講師で関心の薄い時代を映してくれました
- 関東に絞って話しをすすめて頂き興味深かった。
- 大変ハギレ良く、お話し頂きました
- きめこまかくわかりやすかったです。たいへん声が聞き良かったです
- 解説が判りやすかった(3人)
- 説明が良く理解出来た、話しがうまい
- 将軍、公方、管領の位置関係が理解できた
- 良かったけど、むずかしかった
- 人間関係一系譜等が入り組んで理解する事がむずかしいところもあったが面白く聞くことが出来た
- 明快な説明で大変良かった
- 室町時代は分かりにくい感じが強かったが「上杉禅秀の乱」の説明を聞き、いくらか分かった感あり、そこが良かった。京都が舞台の「応仁の乱」にも興味が湧いてきました)
- むずかしいと考えていた室町時代の話の糸口が見つかった気がします
- 室町時代の関東の武士達 余り勉強した事がなかったので呉座先生の講義は大変興味深かったです)
- 改めて室町時代の関東の情勢がわかり興味がわきました
- 資料もそろっており、分かりやすかった、声ははっきりし、聞きやすかった。室町時代の関東方面は未知であったので、大変参考になり楽しかった
- 初めて聞く上杉禅秀の乱のてんまつ興味深く楽しんだ、残念ながら歴史について知識不足のため人名等わからず、理解不足となった
- 「応仁の乱」以上に複雑な感じがした、諸説を公平に挙げ、歴史の難しさを実感した
- 禅秀の乱の色々な学説があり、面白かった、個人的な見解に感銘した
- ほとんど知らない事件だが、説明が分りやすく、背景も理解できた、自論だけでなく他の学者の意見も紹介するフェアな態度に好感が持てる、歴史的事実の解釈に「定説」がないのも室町時代の人気がない理由の一因かと思う
- 詳しい資料ともども良く理解できた
- 足利幕府と鎌倉公方との関係がわかった
- 大変複雑な当時の情勢を解りやすく解説して戴き有難うございました
- むずかしい内容を詳しく説明頂いた
- 順序たてで説明していただき理解出来ました
- 「鎌倉大草紙」の読みが判りやすくぐんぐん引き込まれた、研究者・先生方の色々な考えがとても面白いと思いました
- 話が複雑すぎた

- わかりづらかった、資料を再読して次回に望みたい
- 複雑な室町期の関東の状況を京都と関連付けた説明で初歩的理解が得られた
- レジюмеだけでは不明点があり、説明で大分解ったが、まだ不明点があり、時期を見て再度聞きたい。
- 話し方がしょうずで聞きやすかった
- 室町時代の歴史は分かりにくい。しかし今日の講座で少しは理解が進んだ。資料のまとめ方も独特で多面的広く理解するのに良かったのではないか
- 書類の見方にとまどった
- 内容がつまっているのに追いかけるのが大変だった
- この乱についてよく知っていなかったので、興味が出た
- 興味深い内容でよかった、“永享の乱”が楽しみです

### 3. 呉座講師に希望する講演テーマについて

- 応仁の乱についてお願いしたい(6人)
- 京都からの出張で大変であると思うが来期は是非「応仁の乱」を講演願いたい
- 鎌倉府と京都に於ける応仁の乱とのつながりが聞きたい
- 又、聞きたい
- 太田道灌について
- 室町時代に関することならなら、どんなテーマでもよい
- 絶え間なく続く戦いの中での武士ではない僧でも無い人々の日常はどのようなものなのか聞きたい

### 4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
15名	19名	5名	3名

※チェック無し 9名

- 資料(レジюме)の編集を一工夫してほしかった
- 資料のとじ方が非常に見づらくて先生の講話について行くのが大変だった
- 資料 A3 の表裏印刷は見にくい (3人)
- インターネットの“わ”の会の連絡に13時とでていた、13時30分と書くべきでなかったか  
⇒6/19確認、HP“わ”の会通信とも 13時30分
- 大変良い先生にお願いしたこと
- 講師の呉座さんを最寄りの駅に迎えるのが良かった(2人)
- 流れが良かった、御苦労様です
- 受付～講座へとスムーズで感心します

### 5. “わ”の会について

- 又 このような講座に参加したいと思います
- これからも、テーマ(人気のありそうな)を取りあげて、企画して下さい
- 呉座先生の講演は久しぶりのホームランである、今後共実力ある若手先生の講演を望みたい
- 今日の講座楽しみにしていました、暑い中おいで頂いた先生に感謝ですね
- いつも運営委員の皆様に感謝です

以上

第3回学習会

室町時代 II

## 『永享の乱』

開催日：平成29年7月22日（土）

13：30～16：00

会場：能見台地区センター

多目的ホール A・B

講師：国際日本文化研究センター

助教 呉座 勇一 氏



### 【概要】

講演に先立ち、呉座先生の著書「応仁の乱」の販売状況や、7月27日にNHK・BSの応仁の乱に関する特番（2時間番組）への出演などの案内があった。—応仁の乱ブーム未だ冷めやらず—

会場が盛り上がったところで呉座先生が登場、前回のテーマ「上杉禅秀の乱」のおさらいから講演が始まった。

### ■永享の乱の概要

#### ○永享の乱の政治的背景

上杉禅秀の乱が終わった後も、足利持氏は禅秀方に対し執拗に攻撃、京都扶持衆までに及ぶ。これに激怒した足利義持は関東への攻撃を始める。応永30年（1423）に持氏の謝罪の使者が上洛、翌31年室町幕府（義持）と鎌倉府（持氏）の和睦が成立。しかし応永32年に義持唯一の男子義量（5代将軍）が19歳の若さで逝去すると、持

氏は義持の猶子を願い出たり（義持はこれを拒否）、花押を足利歴代将軍（初代～3代）に似たものに変更するなど、次期将軍への意欲を見せる。義持は応永35年に後継者を決めないまま死去、世にも有名な4人の弟によるくじ引きで将軍を決定、6代将軍義教が誕生する。この結果に持氏は大きな不満を持っていたと考えられる。

#### ○義教と持氏が対立した事例

正長元年（応永35）幕府側には、持氏が拳兵上洛を企てているが、関東管領上杉憲実の狂言で止められていることや、後小松上皇が持氏を征夷大将軍に任命するなどの噂が流れるなど、危機意

識が幕府側にあったことが想像される。正長2年3月には義教が将軍宣下したにもかかわらず持氏の賀使が京都に派遣されたのは9月、義教は面会を拒否した。また、同時期に元号が永享と改めら



れるも、持氏はこの改元を無視し、義教を将軍として認めない意思表示をする。永享4年には義教が父義満の嘉例にならい富士遊覧を実施、持氏側を威嚇する。永享6年3月には、持氏が鶴岡八幡宮に「呪詛の怨敵を末兆に攘い、関東の重任を億年に荷わんがため」とする血書願文を奉納する。

### ○永享の乱の勃発と経緯

永享10年(1438)6月、持氏の嫡男賢王丸の元服式が行われる。将軍家より一字を頂くのが今までのしきたりであったが、持氏は憲実が諫言するもこれを無視し、義久と名乗らせる。元服式では持氏が憲実を誅殺するという噂が流れたため憲実は式を欠席。その後、双方で和解のための工作が行われたがいずれも不調、また、8月16日の鶴岡八幡宮での放生会が終わるのを待って、山内の憲実邸を攻撃する噂があり、14日に憲実は自害も考えるが、家臣たちの説得により上野に避難する。憲実の逃亡を知った持氏は憲実討伐を決定、一色直兼・持家を討伐軍の大將に任命、15日夜半に鎌倉を出発、持氏も16日に鎌倉を出発し武州高安寺に布陣、永享の乱の勃発である。

### ○永享の乱の結末と持氏の敗因

憲実は持氏をあくまでも主君と仰ぎ、幕府に対し再三、持氏の助命を嘆願するが、義教は許さず、持氏の首をとるよう命じる。永享11年2月憲実は永安寺を攻め、持氏は自害(享年41歳)。憲実は責任を感じ自害を図るが止められ出家する。

持氏は当初憲実を討伐するため軍を動かしたも

怨敵とは勿論義教。また同年には、幕府と対立する延暦寺が持氏に上洛を勧めたとする噂や、持氏は謀反を企て憲実の諫言で延期されているが、持氏の気持ちは変わらないなどの報告が幕府にもたらされる。この時点で義教と持氏の対立は修復不能な事態に陥っていたと考えられる。

幕府は憲実討伐を予想しており、8月1日の時点で奥羽の武士たちに「憲実を助けよ」と命じている。22日には禅秀の子・上杉教朝を大將とする幕府軍が京都を出陣、関東の武士たちにも持氏討伐を命じた。義教の迅速な対応は、あらかじめ予想、この機を待っていたものと思われる。9月には上野で憲実軍と一色軍が、相模国内で幕府軍と持氏軍が合戦するが、9月27日の早川尻の戦いで持氏側近の上杉憲直が破れ、持氏方の敗勢が決定的となり、有力武將も相次いで離反した。11月2日持氏は、憲実の家宰長尾忠正に一色直兼、上杉憲直の排除を約束し鎌倉に入る(事実上の降伏)。持氏は浄智寺に入った後4日には称名寺に移り出家、11日には鎌倉の永安寺に幽閉される。

ので、この時点で幕府と戦うことは全く考えておらず、予想外の展開になったはずである。幕府側が憲実と密に連絡を取っていたことから迅速に対応できたのに対し、持氏の全く甘い情勢判断が敗因の大きな要因になったと考えられる。

### ■永享の乱の始期は(呉座講師の研究論文に基づく)

講演の後半は、歴史研究者は日頃どんな研究をしているのか、講師の研究論文に基づく永享の乱の始期をテーマに、その一端を覗かせてもらった。

憲景讓状(臼田文書)にある「永享九年の大乱」の記述は正しいのか(通説は永享10年)、今回は3種類の古文書と他の研究論文などを参考に、「藤沢御陣」と「無為」をキーワードに検証された結

果を詳細に説明された。(実際は多くの古文書を読み漁り、気の遠くなるような検証を積み重ねた結果と推測される)それによると永享の乱は、実際には永享9年に始まり(冷戦状態)、その時点で既に勝敗が決していたとする師の説明には説得力があり、また印象的でもあった。

最後に、呉座先生は今日本で最も多忙な歴史学者の一人であるにもかかわらず、“わ”の会・学習会の講師を2回にわたって務めていただいたことに、深謝。(山腰策次郎 記)

## 2017 年度第 3 回学習会アンケート集計と実施報告

### 1. アンケート集計

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	計	アンケート (提出率%)
	男	56	6	62 (60.8)	1	63	
女	9	2	11 (57.9)	5	16		
計	65	8	73 (60.3)	6	79		

### 2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
33 名	18 名	1 名	0 名

- 資料にそって丁寧に説明進めていただけたので理解しやすい
- 声をはっきりし丁寧な説明でよく理解できた
- わかりやすい説明であった、歴史研究の進め方をていねいに説明されたことが印象的であった
- 大変わかりやすい説明です
- どんどん引き込まれていく時間が続きました (実写で観ている様に心持ちも味わいながら)
- 歴史家の心情が判った
- 後半の文書から、歴史を発掘していくプロセスが興味深かった
- 乱の過程から、当事者の最後まで、とてもわかりやすかったです。研究の流れも大変興味深かったです
- レジユメがとても整理されていて、あとは自分書き足していけば良いだけだったので非常に助かりました
- そもそも題材が違うからかもしれませんが、前回よりも話について行きやすかったです
- 資料が詳細・丁寧に書かれ分かり易い、歴史の 1 年の重みを感じた
- 若い研究者から立派なお話をきけて、大変よかったですと思います
- 資料にそって順序よく説明されたのでわかりやすかったです
- 「永享の乱」の歴史的流れが整理されていて良く理解出来た
- 良く整理された資料とお話で理解です
- 永享の乱受講至しましたが講師話し方が大変よかったです
- 久し振りに勉強することが出来、嬉しく思ってます
- 歴史を見る仕方や様々な資料を読み解くむつかしさと面白さを知ったことがうれしい
- 面白いテーマを分かり易く、講演して頂けた
- 時系列的に説明があったこと
- 「永享の乱」について、詳しく知ることができた
- 永享の乱の知らない裏面が解り、非常に興味深かった
- 歴史の解釈により、歴史の見方が変わる、面白い
- 永享九年の経緯について興味を新たにしました
- 永享の乱に至る背景・経過が分かりました
- やはり自分の住んでいる地域の歴史だから興味も沸く
- 鎌倉公方足利持氏が将軍足利義教により討伐された永享の乱。これには関東管領上杉憲実と対立し、戦端を開いた戦いは関東全域に及んだなど詳細に分かった。話し方が分かりやすく、勉強になった
- 「永享の乱」を裏から表から解釈し、大変判りやすい講演でした。各史料についても詳しく説明された
- 人間関係が複雑で理解が難しかったが、人間の動きが実に面白いものと思う

- かくも資料を読みこんで、歴史研究がされていること、改めて感動したしだいです
- 前回の講演を踏まえての解説で多少、解り易かった。室町時代を少し勉強しようと思います
- たいへんおもしろかった
- 先生の力説された説明は良かったが、話が難しく分かりにくかった
- 前回の講演で基礎知識があったので、前半は良く理解出来た。後半は逐条解釈は難しすぎる、何を云っているのか理解出来なかった
- 今も昔も人の心が世の中を動かしている。登場人物の気持ちが生きいきと語られ、相互関係も良くわかった
- 微に入り細に亘って良く解ったが、年のせいか、すぐ忘れそう
- 余り細かい時期の説明で解りにくかった
- 応仁の乱の著者の呉座先生に2回に亘って詳細の講演を頂き良くわかった、参考になりました

### 3. 呉座講師に希望する講演テーマについて

- 室町時代について更なるご講演をいただきたい
- 先生のお得意分野についてご講演いただきたいとおもいます
- この話の後に続く戦国時代についても講演願いたく
- 結城合戦
- 応仁の乱、執筆の裏話
- 応仁の乱(5)
- 来年も是非お聞きしたい
- 著書にある「一揆の原理」「日本中世の領主一揆」に関した話もお聞きしたいです
- 中世史全般を講演していただきたい

### 4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
24名	18名	2名	8名

- 永享の乱について余りに細かく説明されて時間が足りなくなったのでは？
- レジメの中の字の大きさが表紙と同じ大きさなら老眼鏡がいらなかった
- スムーズで参加しやすかったです
- とにかく著名な先生を引っ張り出してくれました
- 酷暑の中で事前準備から御苦労様でした
- いつもお世話様です
- 御苦労様です
- いつもお世話になります
- スムーズな運営でした
- 良い先生を講師としていただき感謝

### 5. “わ”の会について

- 今後、機会あるごとに「歴史事典」についての話題を会員へ提供し、会員の歴史事典に対する関心を高める時期に来ていると考える
- 会員ではありませんが、良い企画がありましたら、又お誘いいただきたいと思います
- 次回も是非参加したいと思います
- いつも いつも行動力には感心させられます
- 特になし
- もう少し易しいのをお願いします

以 上

## 『寺社を巡る会』活動記録 平成29年1回～3回

## 第1回 鎌倉幕府滅亡

開催日：平成29年5月12日（金）

参加人数：男性28名 女性5名 合計33名

コース：稲村ヶ崎駅～十一人塚～稲村ヶ崎公園～針摺（針磨）橋～成就院前～極楽寺切通～御嶽神社～  
鎌倉海浜公園（昼食）～骨塚～九品寺～乱橋～東勝寺跡・腹切りやぐら～宝戒寺（解散）

今年3月、新しい駅舎となった江ノ電、稲村ヶ崎駅に集合。踏切を渡り十一人塚に立ち寄り。鎌倉攻め新田軍の武将、大館宗氏が極楽寺切通しを突破、由比ヶ浜方面へ進出した際、北条軍の猛反撃に遭い討死、最後まで残った11人は自刃。その霊を弔うために建立された。

次は極楽寺川に沿って砂鉄を含んだ砂浜を歩き、鎌倉幕府滅亡に追い込んだ古戦場の顔を持つ稲村ヶ崎公園へ。天然の要害だった鎌倉を、岬から海へ太刀を投げ、引き潮を利用して攻め入った「新田義貞徒渉伝説」を伝える石碑が建っている。現在は高台から夕陽が沈む相模湾・江ノ島・富士山を望む景勝地として知られている。極楽寺川にかかる針摺（針磨）橋を渡り、極楽寺切通し途中にある成就院山門から、由比ヶ浜を眺め石段を降り御嶽神社を訪ねる。石段を登ると左手奥には昔「太刀持ち稲荷」と呼ばれていた社殿があり、その後山岳信仰の人達の管理によって御嶽神社が合祀され、その呼び名になったという。境内には「御嶽」「法頭不動」武士の守り本尊と云われる「摩利支天」の石碑を含め、31の石碑が所狭しと建っていた。

次は海浜公園で昼食を摂る。日差しは真夏を思わせましたが、日陰は海からの涼風が通り抜けほっとする一時を過ごす。昼食後は、鎌倉簡易裁判所裏庭の万霊供養塔「骨塚」へ。昭和28年の発掘調査により、刀傷の

ある人骨が多数発掘され、供養のため建立されたという。

次は九品寺を訪ねる。鎌倉幕府を倒した新田義貞が3年後、北条方の戦死者を弔うため尊敬していた風航順西を京都から招いて建立した浄土宗の寺。山門と本堂の額「内裏山」「九品寺」の文字は義貞の筆を写したものであるという。

次は乱橋。鎌倉に攻め入った新田軍の勢いに押され、北条軍が乱れ始めた場所であったこと、また、1メートル足らずの川が氾濫したことから名付けられ、現在も地名が残っている。本覚寺の門前で小休止したあと、東勝寺跡・腹切りやぐらに向う。滑川にかかる東勝寺橋を渡り、青砥藤綱が川に落とした十文を五十文かけて探させた逸話を聞く。北条得宗家の氏寺として栄えた東勝寺は、軍事的防御拠点となっていたが、敗戦を覚悟した北条高時・一族郎党総勢870余名が自害し150年余り続いた鎌倉幕府終焉の地となる。東勝寺跡・山側の「高時腹切りやぐら」は宝戒寺の管理のもと歴史上の遺跡として保存されている。

最後は白萩で知られる宝戒寺へ。北条一族の霊を弔うため後醍醐天皇の命により足利尊氏が、北条得宗家代々の屋敷跡に建立した寺である。本堂に入り正面の三尊像、十王像等を拝観する。（近藤健 記）



稲村ヶ崎



九品寺本堂

## 第2回 満福寺・小動神社と江の島巡り

開催日 : 平成28年6月1日(木)

参加人数 : 男性28名 女性5名 合計33名

コース : 江ノ電腰越駅⇒満福寺⇒小動神社⇒江島神社瑞心門脇の福石⇒江島神社(辺津宮・奉安殿)  
⇒八坂神社⇒江島神社(中津宮)⇒コッキング苑(昼食)⇒江島神社(奥津宮)⇒稚児ヶ淵⇒  
杉山検校の墓⇒青銅の鳥居脇(解散)

前の晩の雨が少し残った朝で日中の天気が心配されたが、歩き出す頃は雨も止んで逆に日中の蒸し暑さが心配される天気となった。最初の満福寺は源義経の腰越状で知られる。義経は平氏を滅ぼして鎌倉に凱旋しようとしたが兄頼朝に疎んじられて鎌倉入りを拒絶された。怒りを解こうと努めたが許されず、幕府公文所別当の大江広元に書状を出して力添えを頼んだ。これが「腰越状」で境内には義経が見守る中、弁慶が書状を書いている石像が置いて有る。この書状を以てしても頼朝に受け入れられず、京に戻ったが頼朝の追討を受け、奥州藤原秀衡の元に落ち延びて匿われたが不遇の死を遂げた。義経の死までの情景が寺院の鎌倉彫の襖に残されている。腰越状の下書きの版木の写真も展示されている。結構長文である。

次は小動神社。小動岬に立つ。源平合戦で活躍した佐々木盛綱が江ノ島弁財天に参詣の途中にその风光と小動の松に感激し近江の国八王子宮を勧請したのが始まりと伝わる。神社参道脇には7月の天王祭に出る神輿を保管する庫が五連並ぶ。江ノ島八坂神社神輿との出会祭りは大規模なもので

ある。

次に江の島へ渡る。江島神社(辺津宮・中津宮・奥津宮)の社伝には、欽明天皇十三年(552)に勅命で島の岩屋に神様を祀ったのが始まりと記されている。海運、漁業、交通の守護神として祀られ、御窟を本宮、奥津宮を本宮御旅所、中津宮を上之宮、辺津宮を下之宮と呼んでいた。鎌倉時代、頼朝は鳥居を奉納し、北条時政は参籠して龍の三つの鱗を授けられそれを家紋とした。また後宇多天皇は蒙古軍を打ち負かした御礼として、「江島大明神」の勅額を奉納した。奉安殿の八臂弁財天、妙音弁財天(裸弁財天)を拝観する。江島神社末社の八坂神社は天王社として祀られ、7月の例大祭では神輿の海上渡御が盛大に催される。サムエル・コッキング苑に入園し、花に囲まれながら昼食をとった。稚児ヶ淵(健脚者のみ往復)は江ノ島西南端の岩場に有るが、遠くに富士山を望む景勝地である。但し、階段の上り下りがきつい。最後に杉山検校の墓にお参りした後、青銅の鳥居脇の広場で解散した。(清水孝照 記)



満福寺本殿



江島神社(辺津宮)

### 第3回 義経と女性たちの鎌倉物語

開催日 : 平成29年7月6日(木)

参加人数 : 男性30名 女性7名(内ビジター1名) 合計37名

コース : きらら鎌倉⇒教恩寺(本堂拝観)⇒土佐坊昌俊邸址⇒畠山重忠邸址⇒鶴岡八幡宮⇒  
天金(昼食)⇒岩船地藏⇒鎌倉国宝館観覧(観覧後解散)

義経は約3年間鎌倉に滞在したにもかかわらず、どこで、どのような人たちと係わり、どのように生きたのか、資料がなにも残されていない。今回の寺社巡りでは義経と係わりのあった女性や、ゆかりのある場所などを手掛かりに、様々な角度から推理、一つの大きな物語としてまとめられており、今までにない鎌倉の寺社巡りとなった。

最初に訪れたのは大町通りから少し奥まった住宅地に佇む教恩寺。この寺のご本尊である阿弥陀如来像は、源平合戦一ノ谷の戦いで捕虜となった平重衡が鎌倉に連行されたとき、一族の冥福を祈るため頼朝が与えたものとされる。この像は鎌倉初期のもので運慶が刻んだと伝えられている。

次は小町大路に面し、石碑が立つ土佐坊昌俊邸址へ。頼朝は義経との対立が決定的になると、義経を誅すべく昌俊を京に派遣する。結果的に昌俊は返り討ちにあうが、頼朝は義経を討つのではなく、義経を挑発し頼朝に反旗を翻す口実を与えるのが目的だったとされる。

河越重頼の娘(郷御前)は頼朝の命により義経の正妻となる。義経はこの頃既に無断任官の件で頼朝の勘気に触れており、その後重頼親子は義経との縁戚を理由に誅殺されている。郷御前と幼い娘との平泉での2年余りの幸せな生活も、衣川館

での自決で最期を迎える。

郷御前の説明を受けた後、畠山重忠邸址に立ち寄り、午前最後の訪問先である鶴岡八幡宮へ。義経と逃亡中、吉野の山中で捕らえられた静御前は、鎌倉に送られ、頼朝の命で八幡宮若宮の回廊で白拍子の舞を奉納する。しかし義経を恋い慕うものであったため頼朝は激怒するが、政子は瞬時にその場を取り成す。政子は事前に静から舞の内容を知らされていた可能性があり、娘の大姫の境遇と重ね、一人の女性としてまた母親として生き抜く凄味のようなものを感じる。

「天金」で昼食をとった後、午後最初の訪問先岩船地藏へ。扇ヶ谷のJR横須賀線の近くに建つ小さな堂宇。この地藏は頼朝と政子の長女大姫の守り本尊と伝えられている。若くして哀れな死を遂げたことを悼み、多くの人がこの谷に野辺の送りをしたと伝えられる。

最後に訪れたのは鎌倉国宝館。平常展示の「鎌倉の仏像」と特別展示の「常盤山文庫名品展」を観覧。鎌倉ガイド協会の造詣深い説明にはつい聞き入ってしまうほどで、大変ためになった。国宝館前で解散。(山腰策次郎 記)



教恩寺本堂



岩船地藏

平成 29 年度 第 3 回 鑑賞会

<鑑賞日：2017・5・8>

シカゴ CHICAGO

製作：2002 年 米国 上映時間 113分  
 監督：ロブ・マーシャル  
 脚本：ビル・コンドン  
 作曲：ジョン・カンダー、ダニー・エルフマン  
 出演：レニー・ゼルウィガー、キャサリン・ゼタ=ジョーンズ、リチャード・ギア  
 受賞：第 75 回アカデミー、作品、助演女優（C・Z=ジョーンズ）賞等 6 部門受賞

（あらすじ）

1920 年代のシカゴ。ナイトクラブで踊るヴェルマ（C・Z=ジョーンズ）の歌とダンスを陶然としてロキシー（R・ゼルウィガー）は見つめている。彼女の夢はショー・ビジネスの世界で成功することだ。ロキシーは夫のいる身で、浮気をしている。浮気相手は「デビューのチャンスをやる」と彼女をだましていたが、それが嘘と分かり、射殺してしまう。刑務所に入ったロキシーはそこで、憧れのヴェルマと出会う。ヴェルマは自分の亭主と妹が密通している現場を見て、二人を射殺したため刑務所に入れられたのである。ヴェルマは巧みに女看守長のママ・モートンを買収し、辣腕弁護士ピリー（R・ギア）を雇うことに成功する。ピリーは、マスコミ操作などを通じて犯罪者を新聞の一面を飾るスターに生まれ変わらせる術に長けていたのである。ロキシーはママを通じてピリーに弁護を頼み、お人よしの夫エイモスは弁護士

を工面してようやく雇うことができた。ピリーはロキシーの生い立ちをすっかり書き換えてしまった。「両親を亡くし、修道院で育ったわたしは男にだまされ、自分の過ちに気付いた私は男と別れようとしたが、別れ話もつれて、男を殺してしまった。今は後悔しています」と法廷で涙ながらに話すロキシーに世間の同情は集まり、『シカゴ史上最もキュートな殺人犯』と一躍有名人となった。ピリーの作戦は当たり、ロキシーは一つのブランドとなり、巷にはロキシーの髪形をまねた女たちが溢れ、オークションにかけられた彼女の持ち物は飛びように売れた。しかし、シカゴでセンセーショナルな事件が起きるとマスコミの関心はすぐ移り、すると、ピリーたちはロキシーの妊娠を発表し巻き返す。その間裁判は進行して、とうとう判決の日が来た……

（解説）

20 世紀を代表する振付師であり、ブロードウェイで一時代を築いた演出家、ボブ・フォッシーの代表作「シカゴ」の映画化である。殺人を犯し、刑務所入りというスキャンダルを逆手にとって、ショービジネスの世界で頂点に上り詰めようとするしたたかな女達を描いている。監督のロブ・マーシャルはミュージカルの舞台では著名の演出家で、サム・メンデスとの共同演出、振付けによる「キャバレー」はトニー賞を得ている。映画の監督は初めてだが、「シカゴ」の舞台を映像に置き換えるこ

とに見事に成功している。作曲は「キャバレー」のジョン・カンダーと「スパイダーマン」のダニー・エルフマン。この映画は耳に馴染みやすい曲が多く、全曲吹き替えなしでキャストが歌っている。ロブ・マーシャル監督の巧みな手綱さばきのもと、ゴージャスな曲とダンスに加えて、レニー・ゼルウィガー、キャサリン・ゼタ=ジョーンズ、リチャード・ギアと 3 人の芸達者を揃え、1920 年代の雰囲気伝えて、上質なミュージカル映画となった。

平成 29 年度 第 4 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2017・5・22〉

## 天井桟敷の人々 Les Enfants du Pradis

製作：1945 年（仏） 1952 年（日本） 上映時間 190 分  
監督：マルセル・カルネ  
脚本：ジャック・プレヴェール  
出演：ジャン・ルイ・バロー、アルレッティ、ピエール・ブラッスール、  
マルセル・エラン、ルイ・サルー、マリア・カザレス  
受賞：ヴェネツィア国際映画祭特別賞、フランス映画史上ベストワン  
日本キネマ旬報外国映画史上第 1 位（1980 年）

### （あらすじ）

第 1 部（犯罪大通り）19 世紀パリの歓楽街プールヴァル・デュ・タンブリの芝居小屋は連日鈴なりで、その大通りは多くの犯罪者や、ならずものが集まるため、「犯罪大通り」とも呼ばれていた。その街の pantomime 役者バチスト（ジャン・ルイ・バロー）はスリの嫌疑をかけられていた見世物小屋の美女ガランス（アルレッティ）を得意の pantomime で助けた。それをきっかけにバチストはガランスに淡い恋心を抱くようになる。しかし、ガランスの周りには無頼派の作家ラスネール（マルセル・エラン）や若い俳優ルメートル（ピエール・ブラッスール）が取り巻き、内気なバチストはその愛を伝えられない。彼女を下宿に招いても、体を抱くこともできず、二人は別れる。その夜、ガランスはルメートルの誘惑に負けて身を任

せてしまう。バチストの紹介で彼の芝居小屋に雇われたガランスはその美女振りが評判となり、社交界の花形、モンレー伯爵（ルイ・サルー）に見染められ彼の囲い者になる。

第 2 部（白い男）5 年後、傷心を乗り越えたバチストは pantomime の名手となり、座長の娘ナタリー（マリア・カザレス）と結婚し、一児をもうけていた。ルメートルも一流の役者となり、ラスネールも大物の悪人となっていた。そこにガランスがモンレー伯爵と英国から戻ってきて、毎夜バチストの pantomime を見に来ていた。ガランスの恋の相手がルメートルと勘違いした伯爵は、ルメートルに決闘を申し込むが、伯爵を憎んでいたラスネールに殺される。バチストは思い出の下宿でガランスと会い、初めて結ばれた……

### （解説）

マルセル・カルネ監督がドイツ占領下のフランスで、3 年 3 カ月の歳月をかけて、製作した超大作。フランス映画界の至宝といわれる名作である。ハリウッドに逃げずにフランスに留まったフランスの映画人が結集した作品で、1990 年、フランスのテレビ局主催の投票で、フランス映画の第 1 位に輝いた。監督、マルセル・カルネ、脚本ジャック・プレヴェール、

演ずるはジャン・ルイ・バローをはじめ数多くの名優達マルセル・カルネは、パリの歓楽街を舞台に、恋と芝居に生きた人々の人間模様を生き生きと描ききった。ガランスをはじめ登場人物は皆、自由に生き、恋し、苦しむ。人間の高貴さと自由をテーマとすること自体、映画人のレジスタンスであった。



平成29年度第5回 鑑賞  
〈鑑賞日：2017・6・12〉

## 喝采 The Country Girl

製作：1954年 米国 モノクロ 上映時間 104分  
監督・脚色：ジョージ・シートン  
原作：クリフォード・オデッツ  
出演：ビング・クロスビー、グレース・ケリー、ウィリアム・ホールデン  
受賞：第27回アカデミー賞 脚色賞ジョージ・シートン、主演女優賞グレース・ケリー受賞

### (あらすじ)

ブロードウェイの若い演出家バーニー・ドッド(W・ホールデン)は今度上演する新作の主演者にフランク・エルジン(B・クロスビー)というミュージカル・スターを使いたいと思っていたが、プロデューサーのフィル・クックは反対だった。フランクは酒浸りで演技にも、歌にも昔の面影がないというのである。しかし、バーニーはクックを説き伏せて、フランクのテストをした。結果は良かったが、自信のないフランクは結果を聞かずに去った。バーニーは彼の行き先を探し、フランクの家を訪ねた。フランクは契約内容に不満だったが、妻ジョージ(グレース・ケリー)にすすめられて承諾した。しかし、稽古に入ってもフランクは身が入らず、バーニーに言い訳をする。数年前に交通事故で一人息子を失い、そのショックで妻は酒浸りになり、何度も自殺を試みてフランクを困らせているから

だという。この話にはバーニーはすっかり騙されてしまい、フランクをダメにしているのはジョージだと彼女を憎むようになる。ポストン公演の幕が開いたが、初演は失敗に終わった。その原因がジョージにあると決め付けたバーニーは、ジョージをニューヨークに帰そうとする。ジョージが帰ることにショックを受けたフランクは街に出て酒場で泥酔してトラブルを起こし、留置場に入れられてしまう。身柄を引き取りに行ったバーニーはそこでジョージに出会い、話すうち、息子が死んで酒を飲み始めたのは、ジョージではなくフランクであることを知る。フランクの嘘に気付いたバーニーはこれまでの態度をジョージに深く詫げる。バーニーは献身的なジョージの態度に愛情を感じるようになった……

### (解説)

ブロードウェイのヒット戯曲の映画化である。ジョージ・シートンが脚色し、監督したいわゆるバックステージものである。アル中の夫を立ち直らせようと献身的に支える妻に、思いを寄せる若い演出家の三角関係を軸に、ドラマは展開する。監督のジョージ・シートンは二人の間で揺れ動く微妙なジョージの

心の変化を捉え、高度な心理劇に仕立てている。この映画でグレース・ケリーは好演し、初のアカデミー主演女優賞を得ている。また、相手役のビング・クロスビーも主演男優賞にノミネートされたが、栄冠は『波止場』のマーロン・ブランドが得ている。

平成 29 年度第 6 回 鑑賞  
〈鑑賞日：2017・6・26〉

## 天平の躰

製作：1980 年 『天平の躰』製作委員会 上映時間 152 分 配給 東宝  
監督：熊井啓  
原作：井上靖  
脚本：依田義賢  
出演：田村高廣、中村嘉葎雄、大門正明、浜田光夫、草野大悟、井川比佐志、藤真利子、  
高峰三枝子、

### (あらすじ)

天平 5 年 (733 年) 春、若い日本人僧、普照 (中村嘉葎雄)、栄叡 (大門正明)、玄朗 (浜田光夫)、戒融 (草野大悟) の四人が第九次遣唐使船に乗って、大津浦を出航した。留学僧に選ばれた名誉と、再び生きて日本の土を踏めるかという不安が一行を包む。特に普照は美しい許婚者平郡朗女 (藤真利子) と苦悩の末、別れての出発である。この時期、日本最大の課題は律令国家の建設であり、仏教界の確立であった。四人は唐の高僧の渡日要請の任務を持って洛陽に入った。一行は玄宗帝に迎えられた。そこで、挫折した留学僧や經典を正しく日本に伝えるため、写教に一生を賭している業行 (井川比佐志) などに出会う。四人は玄宗帝に従い、洛陽から長安に移るが、渡日を快諾してくれる高僧にはなかなか会えない。この間、戒融は仏陀の真理を知るために一人旅立っていった。日本を出てから 10 年目、一行は栄叡と同じ大安国寺の僧道抗を

通じて道抗の師の鑿真和上 (田村高廣) を知る。和上は一同の熱意に渡日を表明する。しかし、日本人僧の帰国渡航は非合法であり、まして、中国人僧が渡日することは許されることではなかった。普照らの行動は張警備隊長に監視されることになった。栄叡と道抗は密出国の首謀者として逮捕され、自信を失った玄朗は一行から離れていった。三年後、道抗は獄死し、栄叡は釈放された。天宝 7 年、和上は渡日を決行するが、暴風に遭遇して失敗、栄叡は疲労と熱病で死亡する。その頃、奈良朝廷は第十次遣唐船の出航を決定、四人が出てから二十年が経っていた。普照は還俗した玄朗からこの話を聞き、駐唐大使、藤原清河を訪ね、和上の渡日を要請した。一方、和上は度重なる疲労から失明していた。そして、一同の情熱に張警備隊長の温情もあって、普照らは日本に向かう船に乗った……

### (解説)

天平時代、日本の仏教界は規律がゆるみ、戒律も整っておらず、仏教界の確立が喫緊の課題であった。そのためには、伝戒の師を招聘せねばならず、第九次遣唐使船には中国の高僧を日本に招聘する役割を帯びた四人の学僧が選ばれた。この映画は彼ら四人の苦難の物

語である。井上靖の原作『天平の躰』の映画化は熊井啓監督の悲願であった。熊井監督は長年にわたり中国側と折衝を続け、中国側の全面的な協力を得て、中国で本格的なロケを行い、壮大な歴史ロマンを完成させた。

平成29度 第7回 鑑賞会

〈鑑賞日：2017・7・10〉

## アンナ・カレーニナ Anna Karenina

製作：2012年 英・仏 上映時間 130分  
公開：2012年(英) 2013年(日本)  
監督：ジョー・ライト  
原作：レフ・トルストイ  
脚本：トム・ストップード  
出演：キーラ・ナイトレイ、ジュード・ロー、アーロン・テイラー・ジョンソン、ドナルド・グリーンソン

### (あらすじ) 1

9世紀のロシア、政府高官カレーニン伯爵(ジュード・ロー)の妻アンナ・カレーニナ(キーラ・ナイトレイ)は社交界の花で、人々の注目の的である。しかし、年の離れた夫との仲に愛はなく、空疎な日々が続いていた。アンナの兄のステパン・オブロンスキー公爵(マシュー・マクファディン)が浮気が原因で離婚騒ぎとなり兄に呼ばれてモスクワにやってきたアンナはモスクワ駅で青年将校アレクセイ・ヴロンスキー伯爵(アーロン・T・ジョンソン)と出会う。アンナは兄嫁のドリー(ケリー・マクドナルド)を説得し、兄と仲直りをさせたあと、舞踏会でヴロンスキーと再会する。ヴロンスキーがドリーの妹キティと交際していることを知り、後押ししようとするが、逆に彼が、自分を好きなことを知って、動揺してしまう。夫と子供がありながら、若いヴロンスキーに心が騒いだことに罪の意識を感じて、すぐにサンクトペテルブルグに帰ろうとするが、同じ列車にヴロンスキーも乗

り込んで追いかけてきた。アンナはヴロンスキーを拒絶しようとするが、言葉とうらはらに、浮き立つ心をどうしようもできなかった。

アンナの兄の友人リョーヴィン(ドナルド・グリーンソン)は、ドリーの妹のキティに求婚するためにステパンを訪れ、応援を頼むが、ヴロンスキーが好きなキティに断られる。アンナとヴロンスキーとの仲は社交界では公然の秘密となる。カレーニンはアンナに忠告するが無視され、それ以来、見てみぬ振りをするようになる。アンナはヴロンスキーの子供を宿した。競馬の障害レースの日、ヴロンスキーが落馬したところを見たアンナは泣き崩れてしまい、そのことを夫からたしなめられたアンナはヴロンスキーを愛していることを告白してしまう。夫はショックを受け、自分の名誉が傷つかないように対面を保ってもらいたいと言うしかない……

### (解説)

トルストイの原作をトム・ストップードが脚色し、ジョー・ライトが監督した。総てを捨て、許されぬ恋を選んだアンナのたどる道は険しい。しかし、監督のジョー・ライトは舞台劇、人形劇、絵画まで用いる大胆な演出でケレン味たっぷりの映画を作った。原作同

様にトム・ストップードもアンナの対極にアンナの兄の友人リョーヴィンを登場させる。一度は断られたキティと結ばれたあと、田舎に戻り、農民と共に収穫にいそしみ、平穏な家庭を営む夫妻の姿を捉えて映画は終わる。

平成29年度 第8回 鑑賞会

〈鑑賞日：2017・7・17〉

## レインマン Rain Man

製作：1988年 米国

上映時間 134分

監督：バリー・レヴィンソン

脚本：バリー・モロー、ロナルド・バス

出演：ダスティン・ホフマン、トム・クルーズ、ヴァレリア・ゴリノ

受賞：第61回(1989年)アカデミー賞 作品、監督、脚本、主演男優(ダスティン・ホフマン)受賞 第39回ベルリン国際映画祭金熊賞受賞

### (あらすじ)

チャーリー(トム・クルーズ)は高級車のディーラーをしているが、経営は苦しい。恋人のスザンナ(ヴァレリア・ゴリノ)とカリフォルニアへの旅行中、長い間没交渉になっていた父親の訃報を聞いた。葬儀の案内を聞き、出席したチャーリーは驚く。それは父親の自分への遺産は車とバラの木だけだというのだ。それ以外の300万ドルの遺産はある人物のために信託基金とされているのである。その人物を知るために父の遺産を管理している医師のもとを訪ねるが、教えてもらえない。その病院の帰り、恋人のスザンナの車に知らない男がいるのを見る。その男はチャーリーの実の兄レイモンド(ダスティン・ホフマン)で、重度の自閉症患者であり、ずっと病院にいたため、兄の存在を知らなかったのである。父の残りの財産を継いだのはレイモンドだった。チャーリーは兄が病気であることを良いことに財産を乗っ取ろうと計画する。ロサンゼルスまで旅行に行かないかと誘う。レイモンドは病気特有のコミュニケーション障害があり、健常者には理解できない行動に出るこ

ともあった。しかし、記憶力抜群である。そんな兄をスザンナが面倒を見てくれるようになった。しかし、チャーリーの狙いが遺産だと知って、スザンナは怒って姿を消してしまう。そのため、以降はチャーリーが兄の面倒をみるしかなかった。兄と接しているうちにチャーリーに幼い時の記憶が蘇った。つらい時、誰かが歌を歌ってくれたこと、その人をレインマンと名付けていたチャーリーは、レインマンが兄であることに気付いた。かつて、レイモンドのせいでチャーリーは怪我をし、父親がそれ以降、兄を病院に入れたのである。兄と気付いて以来、チャーリーは遺産に関係なく、レイモンドに親しみを感じ、優しく接することもできるようになった。恋人のスザンナも戻ってきた。今までの時間を埋めるようにいろいろなことに挑戦する兄弟たち。しかし、レイモンドは一般社会での生活は不適合と診断される。もし、チャーリーがレイモンドと暮らしたいなら、レイモンドと同居していることが条件であった……

### (解説)

40年以上も自閉症のため入院暮らしをしていた兄と、16歳の時家を出て、自分勝手に生きてきた弟と、全く異なる人生を歩んできた兄弟が、父親の死をきっかけに出会い、旅を続けながら心を通わせていくヒューマンドラマである。映画は自閉症という難しいテーマを扱いながら、病気の重たさを強調することもなく、むしろユーモラスなシーンで

笑いを誘い、その中から兄弟の心の通いを生み出している。アカデミー賞を得ている良く練られた脚本とスマートな演出、同じく主演男優賞に輝くダスティン・ホフマンの繊細な演技とあいまって「知的な驚きに満ちた魅力的な感動作」(モーショントピクチャー誌)と絶賛された名作である。

## 独自コース 48 番「旧東海道箱根関所から三島宿」 (通算 130 回)

徳川幕府が整備した旧東海道で最も難所と言われたのが箱根八里。小田原宿～箱根宿（およそ箱根関所から駒形神社の間）～三島宿の箱根越えの道です。今回は箱根峠～三嶋大社(西坂)のハイキングコースを歩きました。

箱根西坂は江戸時代には交通の要所でしたが明治以降鉄道や国道の発達により峠を越える人は激減して茶屋の廃業や村人の転出により街道は寂れていきました。そして人々からも忘れ去られて街道は長い間土砂に埋もれておりました。

平成 6 年から三島市が町おこしのため実施した「箱根旧街道石畳整備事業」により石畳は発掘、復元されて街道は復活、歴史探訪やハイキングの人々が多く訪れるようになりました。今は「三島夢街道」となった箱根旧街道を遠く江戸の世に思いを馳せながら歩くコースでした。

実施日：平成 29 年 5 月 19 日(木) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 10km 参加者：13 名(男性 9 名 女性 4 名)

コース所在地：神奈川県 静岡県

交通：往路：小田原駅東口より 7：45 発と 8:05 発のバスに分乗⇒箱根関所通過⇒9:20 箱根町港  
復路：三島駅 15:40 着(解散)

コースと時間：箱根町港 9:45⇒箱根旧街道入り口 9:50→箱根峠→接待茶屋跡 10：55→石原坂→12:00  
山中城跡(昼食、散策) 13:00→富士見平→13:50 三島大吊橋(ティータイム) 14:20  
→14：40 松雲寺 14:50 発バス⇒15：10 三島大社(参拝) 15：40 三島駅 解散

### ご存じでしょうか！ 山中城

山中城は、永禄年間（1560 年代）小田原城を守る城として、後北条氏により北条氏の本城、小田原城の西の支城として創築され、天正 18 年（1590 年）、天下統一を目指す豊臣秀吉小田原攻めの際、豊臣秀次率いる約 7 万の軍勢が山中城を攻撃したのです。守る北条方の兵は約 4000 防御を固めていたものの、増築が未完成のまま、わずか半日で落城したと言われる悲劇の城です。

石を使わない土だけの山城は全国的にも珍しく、北条流築城術の粋を集めた「障子堀」や「畝堀」が有名です。歴史的な面、技術的な面で評価され、「日本百名城」にも選定されています。

### さつき咲きいにして偲ぶ城の跡 一瞥



旧東海道箱根西坂



山中城跡の障子堀とつつじ

## 独自コース 49 番 「安達太良連峰縦走」1 日目（通算 131 回）

安達太良連峰縦走ですが初日は、二本松城見学と奥岳登山口からあだたら溪谷自然遊歩道経由でくろがね小屋へ、ここで一泊し翌日安達太良連峰縦走としました。貴重な史跡・名勝・天然記念物が多くある二本松城跡(霞ヶ城公園)を市指定のガイドさんの説明で見学。タクシーにて奥岳登山口に行き昼食をとりました。その後あだたら溪谷自然遊歩道の自然のなか、1 日目のくろがね小屋を目指しました。遊歩道では五つの滝を眺め、またレンゲツツジ、タニウツギ、イワカガミ、チゴユリなどの花々が楽しませてくれました。途中から雨が降り、カッパを着て無事くろがね小屋に到着しました。夕食は名物のくろがね小屋カレーを食べました。

実施日：平成 29 年 6 月 8 日(木) 天候：晴→雨

歩行距離など：歩行時間 約 2.5 時間 歩行距離 約 6km 参加者：13 名(男性 9 名 女性 4 名)

コース所在地：福島県 二本松市

交通：東京駅 7:32 発[やまびこ 125 号]→郡山駅 8:55 着 9:25 発→二本松駅着 9:47 着二本松駅→(タクシー)二本松城跡見学(タクシー)二本松駅 11:13 発(タクシー)11:40 着奥岳登山口(昼食 11:45~12:15)

コースと時間：奥岳登山口 12:15 発→あだたら溪谷自然遊歩道経由→14:37 着くろがね小屋

### ご存じでしょうか！ 二本松城と二本松少年隊

二本松城は二本松氏（畠山氏）の居城でしたが、伊達政宗によって攻め落とされています。政宗は片倉景綱、次に伊達成実といった有力家臣を城代としていました。豊臣秀吉による「奥州仕置」以降は蒲生氏郷や上杉景勝が会津若松城に入城し、二本松城はその支城として城代が置かれました。江戸時代には丹羽長秀の孫にあたる光重が入城し、明治維新まで二本松藩主丹羽氏の居城となりました。

現在は「霞ヶ城公園」として整備されており、山上の本丸には天守台が再建されています。また麓に復元された箕輪門近くには幕末の戊辰戦争でふるさとを守るために若い命を散らした「二本松少年隊」の群像があります。正式に編成され名が付けられた会津藩の少年 16、17 歳からなる「白虎隊」とは違って、二本松藩の場合は討幕軍が二本松城下に切迫する直前に、出陣を志願した 13~17 歳までの少年たちが緊急に各部隊へ配属されたので、正式な名称はありませんでした。戊辰戦没者の 50 回忌法要で『二本松戊辰少年隊記』という小冊子が配布され、「二本松少年隊」と命名されました。

### 六月や霞ヶ城址想い馳せ 一椀



霞ヶ城址公園(二本松城跡)



あだたら溪谷自然遊歩道



## 独自コース 49 番「安達太良連峰縦走」2 日目

2 日目は安達太良連峰の縦走です。前夜と早朝の雨が嘘のようでご来光も拝めました(一部の人?)。晴れの中安達太良山を目指し登り始めました。安達太良山山頂手前尾根道ではガスが出はじめ、晴れたりガスったりを繰り返しましたが、山頂直前で一転して快晴となり 360 度の素晴らしい展望となりました。箕輪山から鬼面山への下りは、掘れ込んだぬかるみと雪渓で滑りやすく慎重に降りたが何人かは滑り転んだ人もいました。標準タイムをかなりオーバーしましたが、無事野地温泉に到着でき一時あきらめかけた温泉に入ることでもできました。安達太良山からはずっと快晴で素晴らしい展望の山行でした。

コースの所々では、イワカガミ、タニウツギ、シャクナゲ、レンゲツツジ、ショウジョウバカマ、タカネザクラ、ウラジロヨウラクなどの花々が咲いていました。

実施日：平成 29 年 6 月 9 日(金) 天候：快晴

歩行距離など：歩行時間 約 7 時間 歩行距離 約 8.0km 参加者：13 名(男性 9 名 女性 4 名)

コース所在地：福島県 二本松市

交通：復路：野地温泉 14:07 発(タクシー)→二本松駅 14:48 着(解散)

コースと時間：くろがね小屋 5:30→6:18 峰の辻→6:40 牛の背→7:10 安達太良山 7:25→8:30 鉄山(オレンジタイム)8:45→8:55 鉄山避難小屋→9:55 箕輪山(コーヒータイム)10:10→鬼面山の麓(昼食 11:40~12:00)→12:18 鬼面山→13:10 野地温泉(温泉入浴)

### ご存じでしょうか！ 安達太良山

福島県北部にある火山群の総称。土湯(つちゆ)峠をへだてて吾妻火山群に連なる鬼面(きめん)山(標高 1482m)から南に最高峰の箕輪(みのわ)山(同 1728m)・鉄(てつ)山(同 1709m)、さらに狭義の安達太良山(同 1700m)・和尚(おしょう)山(同 1602m)と続く。鉄山と安達太良山を結ぶ稜線(りょうせん)の西に直径 1km、深さ 250m の沼ノ平(ぬまのたいら)の大噴火口があり、1899 年(明治 32)から小爆発を繰り返し、翌年 7 月、大規模な水蒸気・ガス爆発を起こし、硫黄鉱山関係者ら 72 名の犠牲者を出した。

あだたらの名の起源には諸説ある。いわゆる「タタラ」伝説に基づく鉄を産出した山という意味(鉄山が実在する)。あるいは、坂東太郎と同じ安達の太郎から転じたという説。万葉の時代から人々に親しまれてきた山で、歌にも何編か詠まれている。

陸奥の安太多良真弓はじき置きて  
反らしめきば弦はかめかも

### 安達太良を縦走成して汗ぬぐふ 一稅



安達太良山



箕輪山からの磐梯山

# 「ふれあいの道歩こう会」山行について!!

(安達太良連峰縦走に参加して)

田野実裕之

6月の定例会は1泊しての安達太良連峰縦走である。私にとっては2回目の参加、登山は中学の磐梯山以来となる。

しかし、予定日は1週間前から降雨との予報。順延と思っていたところ、前日、山小屋到着を早めて、決行するとの連絡が入り、急遽準備を行う。

初日、現地は晴。早速、二本松城跡を見学する。頂の天守台までの往復で、通常1時間半かかるところを1時間に短縮してもらって、ガイドを依頼する。奥州探題 畠山氏に始まり、戊辰戦争の悲劇で終わった城である。箕輪門を抜けると、松並木の中に大木が数本、見事な枝ぶりである。天守台に上がり360度の展望を楽しむ。このころには、ガイドの声も息切れ状態となる。

タクシーで奥岳登山口に向かい、昼食。12時過ぎ、山小屋に向け出発。溪流の音、白濁する流れ、いくつもの滝、鳥の声、イワカガミの群生などで、ついつい歩みが遅れがちとなる。しばらくすると、日差しの中、雨粒が落ちてくる。雨具を着装し道を急ぐ。足場が悪く急坂の旧道避け、整備された道を進む。やがて、日差しもなくなり、一時本降りとなるが、山小屋が見えるあたりから小降りとなる。山小屋に着き、雨具を干し、汗で濡れた下着を替えて外を見ると、ものすごい豪雨。幹事の判断に感謝。

2日目、山小屋から御来光が拝めたという。天気は晴。5時半、けっこう冷える中を安達太良山を目指して出発。岩に付けられた目印をたどりながら岩場を登る。あちらこちらにイワカガミやショウジョウバカマなどの群生。尾根筋に着いたあたりから霧となり、山頂も見えぬ中、足取りも重くなる。一瞬霧が晴れ、山頂が顔を出す。再び霧の中となる。しかし、山頂付近になると急に霧が晴れ、智恵子の青空に迎えられる。気持ちのよい絶景である。

次いで、鉄山を目指す。やがて、左手に沼の平火口が見える。岩肌と硫黄だけの荒涼とした景色である。山頂からは雲の合間に磐梯山が顔を出す。50余年ぶりの対面となる。その奥には、新潟県境の白銀の峰が連なる。

次いで、箕輪山。若干の差ながら、安達太良連峰の最高峰である。ここから300mほど下って、鬼面山となる。しかし、そのくだけた路は前日の雨で滑りやすく、つかまった笹や木の枝に助けられて尻餅を免れること数度、気の抜けない悪路である。すると、眼前に雪渓。スキーなら瞬時の距離を、横滑りで慎重に下っていく。そこを抜けると、再びの悪路。ようやく登りとなり、岩場で昼食をとる。元気をつけて山頂にたどり着く。来し方をみると、新緑の山とところどころの雪渓、流れ行く雲の影、どこまでも穏やかで清々しい景色である。甘いカフェオレがことのほか美味い。

休息もそこそこにして、野地温泉を目指す。リーダーの足が速い。野路温泉には、計画を3時間弱遅れて到着。途中、入浴は無理との声もあったが、なんとか白濁の湯で汗と疲れを流すことができさっぱりとして帰路に着く。

入念な計画を立て、梅雨の晴れ間をぎりぎりの判断で見つけ、素晴らしい体験と感動を与えてくれた幹事と幸運を授けてくれた山の神に改めて感謝したい。





くろがね小屋に到着



沼の平火口



悪路を終わり昼食



雪渓を慎重に下る

# 「浮雲俳句会」

抄録 No.38

代表 北野 清市

109 回例会 平成 29 年 4 月 30 日

〔 秀作 〕

天賞

炉を塞ぎ好みの茶杓鳩干菓子                      あきえ

茶道における一つの行事を巧みに読んだ秀句。＜炉塞＞は、3月の晦日(みそか)に地炉を塞いだ風炉(ふろ)を用いる。この茶道・茶の湯は、室町時代千利休により大成した。＜干菓子＞は、粉や砂糖などで作り固めた菓子。落雁・金平糖・煎餅などに分けられる。作者は、寒い間使っていた炉を、春になって塞いだのである。普通茶道では、炉塞の前に炉の名残の茶会を開くものだ。しかし、本人はこのような行事は行わず、自分だけで、＜好みの茶杓＞で、＜鳩干菓子＞を頂きながら、季節の変わり目にけじめをつけたのである。

地賞

九九覚え掛け算割り算新学期                      勇 平

期待と不安の垣間みられる佳句。＜新学期＞は、上級学校へ入学することである。しかし、＜新学期＞の中でも、印象的なのはやはり小学校への入学であろう。わけても、親の立場で入学を詠うとすれば、小学校への入学が最も感銘深いだろう。わが子の成長の大きな節目で、喜びと期待と不安の交錯した複雑な気持ちであろう。掲句では、単に＜九九覚え掛け算割り算＞と、算数の問題に絞った形だが、もっともっと入学のわが子へ沢山の不安を抱える問題も背負っているのであろう。

人賞

宮ヶ瀬の湖水にうつる花万朶                      勝 美

驚きとともに発見の喜びが伝わってくる佳吟。＜宮ヶ瀬湖＞は、本県の東丹沢に20年ほど前に完成したダム湖。面積4.6km<sup>2</sup>・貯水量2億m<sup>3</sup>で芦ノ湖とほぼ同じ広さだ。給水面では、横浜・川崎の9割の家庭に給水し、観光面では、美しい自然のもとダム見学・遊覧船の運行・四季を通したイベントの開催などいろいろと楽しめる。掲句は、この宮ヶ瀬湖で満開の桜の沢山咲いている枝々が、湖面に映えているのだ。

特選

花筏幾艘もやふ宮ヶ瀬湖                      祥 代

桜は日本全国どこにでもあります。時期になるとなぜか日本人の心を動かす、心躍らせ又物思う心に花を咲か

せてくれます。その花もやがて雨に濡れ、風に散ってしまいます。花は宮ヶ瀬湖に流れ着く川からも花筏となつて幾艘も舫いながら来ました。その花の最後を惜しみつつ愛でて詠んだ句です。

## 春障子棧を流るる日の音色 和 女

冬が去り、いつの間にか春も終わりを告げる頃になりました。窓の外は、鳥の囀りや草木の若い生命に溢れています。室内では乳白色の障子が、そうした気配を穏やかに受け止めています。そして、春先の心もとない光と違い、柔らかな、確かな光が棧の上を滑るように流れているのです。晩春の陽光は、ゆったりと、それでいて軽やかに翻りながら、心地よい空間をつくり出しています。

## 囀りや耳は貸さじと実時像 一 馬

春は鳥の繁殖期で、囀りも雄鳥の求愛行動だといわれています。 ”わ” の会で編纂された歴史事典によりますと、北条実時は非常な勉学家・読書家であったそうですから、きっと鳥の囀りなんぞには、いや下衆のお喋りなんぞにも耳を貸すことはなかったに違いありません。称名寺の一角にある北条実時の胸像を眺めていますと、13世紀のころのそんな景が甦って来るのです。

## 船笛の金沢沖に夕おぼろ 二 祥

金沢沖の東京湾には千葉や房総半島を背景にひっきりなしに大型タンカー、大型客船、大小多数の貨物船、漁船等が航行している。特に春の夕べは金沢沖の船影の大きさも色もぼんやり見え、汽笛の音さえも水蒸気を含んだ大気の中「ボーン」優しく響いている。まさにそこには春の夕おぼろの金沢沖の東京湾がある。

## 甲斐の国桃に桜に駒ヶ岳 一 柧

甲斐の国(山梨県)の峡北(韮崎市など)や東山梨(甲州市、笛吹市など)地域は国内有数の桃の産地で、4月上旬の開花時期には桃花で埋め尽くされ、また、桜の花も4月上旬なので、息をのむがごとくの極めて美しい光景がみられる。なお、峡北の韮崎市あたりからは、日本100名山の一つ甲斐駒ヶ岳(2967メートル)の雄姿が眺められる。因みに国内で駒ヶ岳とよばれている山は、北海道駒ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、木曾駒ヶ岳、箱根駒ヶ岳など18座あり、他に駒が付く山は24座で合わせて42座ある。

110回例会 平成29年5月21日

[ 秀作 ]

天賞

## 尾瀬沼へ清和の天と燧ヶ岳 一 馬

肺活量の大きな典型的な写生句。特に5月の温和な気候を意味する<清和の天>が圧巻であり、新鮮で叙景的である。尾瀬は、群馬・福島・新潟・栃木の4県に跨っている日本最大の高層位湿原帯。尾瀬国立公園湿原植物

の宝庫として、また観光・学術上貴重な地域である。＜尾瀬沼＞は、面積 1.6 km<sup>2</sup>・水面の高さは 1665m。深さ 8.5m。5～6 月頃の水芭蕉、7～8 月頃の日光黄菅の群落が息をのむ美しさに蔽われる。

## 地賞

### あめんぼう水の地球をひとりじめ 勇平

表現が平易で俳意の深い佳句。＜あめんぼう＞は、水馬・みずすまし・水蜘蛛などという。池や沼の水面に生活している。体長 1.5cm 位で全体に黒褐色をして細長く足が長い。中脚と後脚で巧みに水面上を浮き、水面に落ちている昆虫を捕食する。掲句は＜あめんぼう＞を軽快に捉え、＜水の地球を＞独占しているとまで詠み切っている。

## 人賞

### 陸奥生まれ小柴育ちの帆立貝 重九

水産物の実態がよくわかる佳句。最近の水産物は捕まえる漁業から作る事業に大きく変遷している。このような中でも着目されるものは、天然で捕獲して適当な大きさになるまで飼育してから放流する粗放的方法である。＜帆立貝＞は、北の浅い海の砂底で棲息する大型の二枚貝。殻は円盤状で直径 20 cm ほど。冬から春先にかけて味がよく、小さい間陸奥におき、ある程度大きくなって、小柴で育てるのである。

## 特選

### 緑さす尾瀬沼見張る峠道 一幸

尾瀬には何度行っただろうか。水芭蕉、ニッコウキスゲ、池塘に咲く花、草紅葉、そしてどこまでも続く木道、三条の滝、空を映す池塘、もちろん燧ヶ岳、至仏山などが尾瀬の魅力である。尾瀬沼、尾瀬ヶ原に入るにはほとんどが峠越しの山道からである。その峠は三平峠、富士見峠、沼山峠、鳩待峠である。私自身はどの峠も越したことがある。掲句はその時の景、印象を詠んだ句です。

### 尾瀬沼の逆さ燧に蓮開く あきえ

燧ヶ岳に登った時のことを思い出しました。私にとって燧ヶ岳はかなり厳しい山でした。その分想いは深いものがあります。燧ヶ岳開山に尽力された平野長蔵氏をはじめ尾瀬を守るためにこれまで努力されてきた多くの人々に、尊敬と感謝の念も込めて作句しました。

### 尾瀬沼に歩荷が運ぶ夏の雲 国眼

尾瀬沼には苦い思い出があります。二十年近く前、会社の仲間と訪れました。その当時、私はヘビースモーカーでした。一休みの折、木道の端でぷかーり一服。見知らぬハイカーからやんわり注意されました。謝るばかりでした。そこを“ごめんよ”と歩荷が軽快に通り返り行きました。高く積んだ荷を軽々としょってました。その高い積荷の先に初夏の雲。雲は山小屋の方へ流れていきます。

## 夏霧の尾瀬沼の水面迂りゆく 和女

尾瀬沼のある尾瀬国立公園は5月19日山開きしました。今年は降雪が多かったため、まわりの山々には、まだ残雪の景色が広がっています。下界の平地は初夏の装いで、日々暑さが増していますが、標高1400m以上の尾瀬一帯では気温が低く、夏でも冷涼。ようやく、沼や湿原が眠りから目覚め、動き始める頃です。夏霧が尾瀬沼を包み込み、ゆっくりと水面を迂って流れていきます。これからしばらくすると、辺りは青空と緑に溢れ、本格的な短い夏が訪れます。

## 尾瀬沼へリュック背負ひし日焼顔 二 祥

10数年前、日帰りの軽装で尾瀬を訪れた時の句。私達と違い、そこには日焼けした登山装備の山男達の一群が5月の空と風の中、大型リュックを背負い、木道を行く姿がありました。何とも精悍で恰好良く見え、憧憬を憶えたことを記憶しています。その時を思い出して詠みました。

### 《19回金沢区民俳句大会への参加》平成29年6月4日

梅雨前の快晴に恵まれた実り多き年次大会であった。本大会では、ご当地俳句の一層の作成方についてお願いした。結果的には、出句74句中、ご当地俳句が42句(全体の56.7%)を占め、非常に喜ばしい状況を実現した。因みに、昨年秋の区民吟行大会においては、ご当地俳句の出句数とそれ以外の当季雑詠の出句数が一対一と拮抗している。このような中特記すべきは、わが浮雲俳句会のメンバーの活躍であって、当該年次大会の天地人賞のうち、地賞と人賞を獲得して大会を終了した。

#### 地賞

## 称名寺夏嶺に映える園児服 一 柧

称名寺を囁目したご当地俳句。〈称名寺〉は金沢区にある真言律宗の寺。鎌倉時代北条実時らによって、1276年創建された。当初は七堂伽藍が完備。阿弥陀堂に弥陀菩薩・講堂に釈迦如来・金堂に弥勒菩薩を安置して三世成道に喩えられている。掲句では、園児達が歴史勉強のため称名寺を参観。その〈園児服〉が金沢山など三山の〈夏嶺〉に映えたるというのだ。ご当地の由緒のある古寺を現代的にアレンジした力量は抜群である。

#### 人賞

## 夏潮の水脈曳く白帆野島沖 和女

初夏の野島沖の様子を写真したご当地俳句。帆の色と海の色。初夏の太陽の輝きの世界は美しく爽快である。水平線には房総半島に入道雲が連なり、光にみちた力強い野島沖である。この点、鮮やかに〈水脈曳く白帆〉のもと明るく流れる〈夏潮〉に「夏潮の音よぶ雲の生まれけり 万太郎」、また「ヨット航く4という字が傾いて鷹郎」が脳裡を過るのだ。

今回は、パソコンとインターネットの世界で生きて行く上で必須の ID とパスワードの話です。この二つは、パソコンやインターネットを使うときの「名前」と「印鑑」です。現実世界を例にすると、銀行や証券会社を利用するときの「名前」（「口座番号」）と「印鑑（サイン・指紋認証）」に当たります。

IDにはメールアドレスを使用することが多いです。メールアドレスはインターネット上の名前に当たり、世界中に1つしかないの、あなたを特定できるものです。

パスワードはサービスを提供する側があなたを確認するためのもので、登録してあるパスワードと一致しないとログインを受け付けてくれません。

IDとパスワードが必要になるサービスには次のようなものがあります。

- ① パソコンの立ち上げ時（パスワードの入力を省略して立ち上げることもできますが、使い始めた時にはパスワードを設定しています。記録しておきましょう。）
- ② メールの送受信時（これも通常はパスワードを入力しません。しかし、新しいパソコンでそのメールアドレスを使うように設定する時には必要になります。）
- ③ Yahoo!や Google のサイトのサービスを利用する時。
- ④ Amazon や楽天等でネットショッピングする時。
- ⑤ SONY や富士通等で商品を買って、そのサービスを受ける時。

⑥ ソフトウェアを購入する時。

⑦ LINE や Facebook 等 SNS を利用する時。

これだけ多くのサービスで ID とパスワードが必要なので、注意して忘れないようにしましょう。気を付けることは、

IDには普段使用しているメールアドレスあるいはメールアドレスの@の左側の名前部分を使用することが多いです。

パスワードは自分しか知らない、例えば、家族やペットの名前と生年月日を組み合わせた暗号を基に作成するとよいでしょう。尚、各サービスに同一パスワードを使いまわしていると、どこかで個人情報が漏洩した場合、他のサービスにもあなたに成りすまして侵入される可能性があります。そこで、私は先の基本的なパスワードにサービスの名前から 2、3 個のアルファベットを付け加えて作成しています。

これだけ沢山の ID とパスワードを記憶できますか？ 不確かなパスワードを打ち込むとログインを拒否されて、時間の浪費になります。ログイン画面で「パスワードを忘れた方はこちら」との表示があり、ここをクリックするとパスワードの再設定のプロセスに案内されます。この過程で、登録したメールアドレスに再設定の方法を記載したメールが送付されてくることが多いです。また、登録したスマホや携帯にショートメールか音声で認証番号が送られてきて、その番号を打ち込むケースも増えています。

ID とパスワードを忘れないため、A5 版以



下の手帳にサービス名、ID、パスワード、登録内容を1ページ単位で記載することをお勧めします。私はこの手帳を使うようになってからパスワード忘れによる時間の浪費が少なくなりました。

ブラウザでサービスにログインする時、IDの一部を入力するとIDとパスワードを自動入力してくれることがあります。これは最初のログイン時にIDとパスワードを保存する設定にしている場合です。

Google Chromeの場合、次の操作で、これを確認できます。

- ① Google Chromeの右上にある「Google Chromeの設定」ボタンをクリックする。
- ② 現れたメニューの下のほうにある「設定」をクリックする。
- ③ 一番下の「詳細設定」をクリックして開く。
- ④ 「設定」メニューの「パスワードとフォーム」をクリックする。
- ⑤ 「パスワードを管理」をクリックする。
- ⑥ 今まで使用したサイト名、ID、パスワード（\*\*\*\*\*の形）のリストが表示される。
- ⑦ リスト右端「その他操作」をクリックする。
- ⑧ 下図のように「保存パスワードの詳細」が表示される。



- ⑨ パスワードの右側にある「目玉」をクリックする。
- ⑩ 「続行するには、Windowsのパスワードを入力してください」と表示されたらパソコンを使用する時のパスワードを入力して、「Ok」をクリックする。
- ⑪ このサイトのパスワードが表示される。  
Internet Explorerの場合の操作は次の通りです。
  - ① メニューバーの「ツール」をクリックして「インターネットオプション」を選択する。
  - ② 「コンテンツ」タブを選択する。
  - ③ 「オートコンプリート」の「設定」をクリックする。
  - ④ 「オートコンプリートの設定」の「パスワードの管理」をクリックする。
  - ⑤ 確認したいサイトををクリックする。
  - ⑥ 「パスワード」欄の「表示」をクリックする。



- ⑦ 上図のように「保存されたパスワードを表示するには、資格情報を確認してください」と表示されたらパソコンを使用する時のパスワードを入力して「Ok」をクリックする。
- ⑧ このサイトのパスワードが表示される。

くれぐれもIDとパスワードはしっかり管理してください。

### 古文書で『奥の細道』と『芭蕉翁終焉記』を読む

古文書を読む会 代表 真田 雅行

- “山路来て何やらゆかしすみれ草” (『野さらし紀行』、貞享2年 1685)  
“花の雲鐘は上野か浅草か” (『続虚栗』(みなしぐり)、貞享4年 1687)  
“草臥れて宿かる頃や藤の花” (『笈の小文』、貞享5年 1688)  
“風流の初めや奥の田植歌” (『奥の細道』、元禄2年 1689)  
“あかあかと日はつれなくも秋の風” (同上)  
“旅に病んで夢は枯野をかけめぐる” (『笈日記』、元禄7年 1694 病没の4日前)

上の句は私の好きな芭蕉作品である。

古文書で『奥の細道』と『芭蕉翁終焉記』を読んで芭蕉に興味を持ち、せめてその秀句だけでもおさらいして蕉門俳譜の奥の一端に触れてみたいと思ったのは、約10年前に『奥の細道』の古文書の写しを知人にもらってからである。

今回はその『奥の細道』と弟子の宝井其角が綴った『芭蕉翁終焉記』を読んだ感想である。

「蕉門俳譜」は江戸時代になって大変な流行をみせた新しい詩の形で、初期の貞門俳譜や談林俳譜に飽き足らず更に新風を求める動きの中で、「芭蕉」が編み出した新しい作風であり、この作風に共感した人々が芭蕉の下に集まり全国的に広まっていった。

四季の変化に対する深い感受性、風雅、閑、無常＝変化、しおり等々の芭蕉理想の境地は旅から生まれる。従ってこよなく旅と心の孤独を愛し、“道祖神が招く” からと称して生涯を旅に生き、能因、西行、宗祇を初めとする故人が訪れたゆかりの地（歌枕）を求めて心の交流をし徘徊した。

なかでも『奥の細道』は彼の最大傑作となった。

さて、私は元来俳句には全くの素人であり、「古池や蛙飛び込む水の音」程度しか知識がなかったのだが、江戸時代の五街道を歩いた際、最終の「奥州街道」で出発から松嶋まではかなり芭蕉ルートと重なるため興味が更に膨らみ、旅の半分は芭蕉とのお付き合いとなった。

私の歩いた五街道（東海道、中山道、日光街道、甲州街道、奥州街道）は合計しても約1,600Km（寄り道した分を加えても約3,000Km）程度であるが、元禄2年3月27日（西暦で1689年5月16日）に芭蕉と曾良は江戸深川を発って奥羽の旅に出た『奥の細道』では、陸奥国（ここでは宮城県）から横断して出羽国の日本海に出、南下して最終目的地の美濃



国大垣までは2,400Km(600里)もあり、しかも156日で踏破しているが、1ヶ所に何日も滞在したこともあり、人生五十年といわれた江戸時代、当時芭蕉は46歳であつたから相当なハードスケジュールだったに違いない。(その間『奥の細道』に63もの名句を残している。)

この間各地で多くの門人と歌会を催しているから、頭や体の休まる時は殆ど無かつたであろう。よって体調を壊すこともしばしばであり、徐々に疲労が重なり体力の衰えを助長していった。しかし疲労や体調を越えて旅に出ようという意思は如何ともし難かつたようである。

特に40歳の時に母を亡くした頃からは旅に出る頻度が増え、41歳で『野さらし紀行』44歳『鹿島紀行』『笈の小文』45歳『更科紀行』の旅に出、そして46歳(元禄2年、1689)でのこの東北・北陸の長旅、以後元禄4年9月江戸帰東の途に就くまでの2年余を大津の幻住庵や義仲寺の草庵など近畿各地で過ごしている。

そして最晩年の50~51歳で『奥の細道』の執筆にかかつたようであるが、これに賭ける執念と気力には驚くより他はない。

先ず腹案を練り、その後推敲を重ねて何回も稿を改めたと推定され、例えば清書を依頼した後も更に何度も新たな加筆・修正を加えた結果、後に各種諸本が流布し、どれが芭蕉自筆本なのか判別がむづかしく説が分れている。

(芭蕉自筆野坡(やば)本、曾良本、素龍清書本=西村本、柿衛(かきもり)本など)

芭蕉はそれほどまでに『奥の細道』に期するところがあつたといえよう。

このように多くの訂正が加わって『曾良日記』の記述とはかけ離れた面もあるが、芭蕉には見聞したままの紀行文を記す意図は初めからなく、文学における虚構を用いて彼のいう真実(理想)を表わそうとしたのであろう。

“月日は百代の過客にして行かふ歳もまた旅人なり”

彼にとっては人生は旅であり、旅の人生を奥羽・北陸の地で実践し、彼自身の目で新しく得た自然と人生を蕉風俳句による紀行文として著わしたのが『奥の細道』であつた。

因みに白河の関を越えて奥州に入り、福島須賀川で詠んだ“風流の初めや奥の田植え歌”あたりから旅心が定まったと記し、以後蕉風の珠玉の名句が目白押しに続く。

但し最も訪ねたかった「松嶋」と「象潟」のうち松嶋では本格的な句は残さず、ただ中国の洞庭湖等に勝るとも劣らない本邦一の景色だとして曾良の句を載せるのみであり、是が松嶋を一段と有名にした。芭蕉はいう「造化の天工いづれの人か筆をふるる詞(ことば)をつくさむ」(どんな天才が絵筆をふるい美辞麗句をつくしても表現することが出来ない)。

一方北陸では越後国の長旅(16日間)の記述はほとんどなく、僅かに出雲崎での“荒海や佐渡によこたふ天河”と“文月や六日も常の夜には似ず”の二句のみを載せるにすぎない。

その理由について芭蕉は暑さと湿気で精気が衰え、持病が出たこともあつて書くことが出来ないとして述べている。

曾良も終着地の大垣手前で体調を崩し別行動になった。

次に『芭蕉翁終焉記』は芭蕉無名時代からの最も古くからの門人・宝井其角が遺言に従い、大津の「義仲寺」で木曾義仲の墓の隣に弟子達と芭蕉を埋葬し終え、その牌位下で芭蕉の一

生を回願しつつ、その終焉の記を綴ったものである。(芭蕉の没後初七日の元禄七年十月十八日)。

芭蕉は旅の途中の10月12日に大阪で息を引き取った(新暦では11月29日)が、其角は堺で彼の危篤を知り11日に病床へ駆け付け辛うじて臨終に間に合い、芭蕉と力なき詞を交わした。

12日仲間達と10人で棺を舟に乗せ川を下り、大津の義仲寺に埋葬した。参列者は門人の他に300人余だったという。

『芭蕉翁終焉記』によると、最期に其角は7日程寺に籠って生前の芭蕉を偲び、その最期の葬送るにまで立ち合えた自分の幸運を思い、又他の弟子達の嘆きに思いを同じくして、愚かにも終焉の記を綴つた旨を述べ、遠くにおいてこの期に逢えなかった人々に対しせめて「是をもて回向のたよりとすべし」と結んでいる。

“なきがらを笠に隠すや枯尾花”

枯尾花は薄(すすき)のことであるが、この場合は芭蕉その人を指したものであろう。

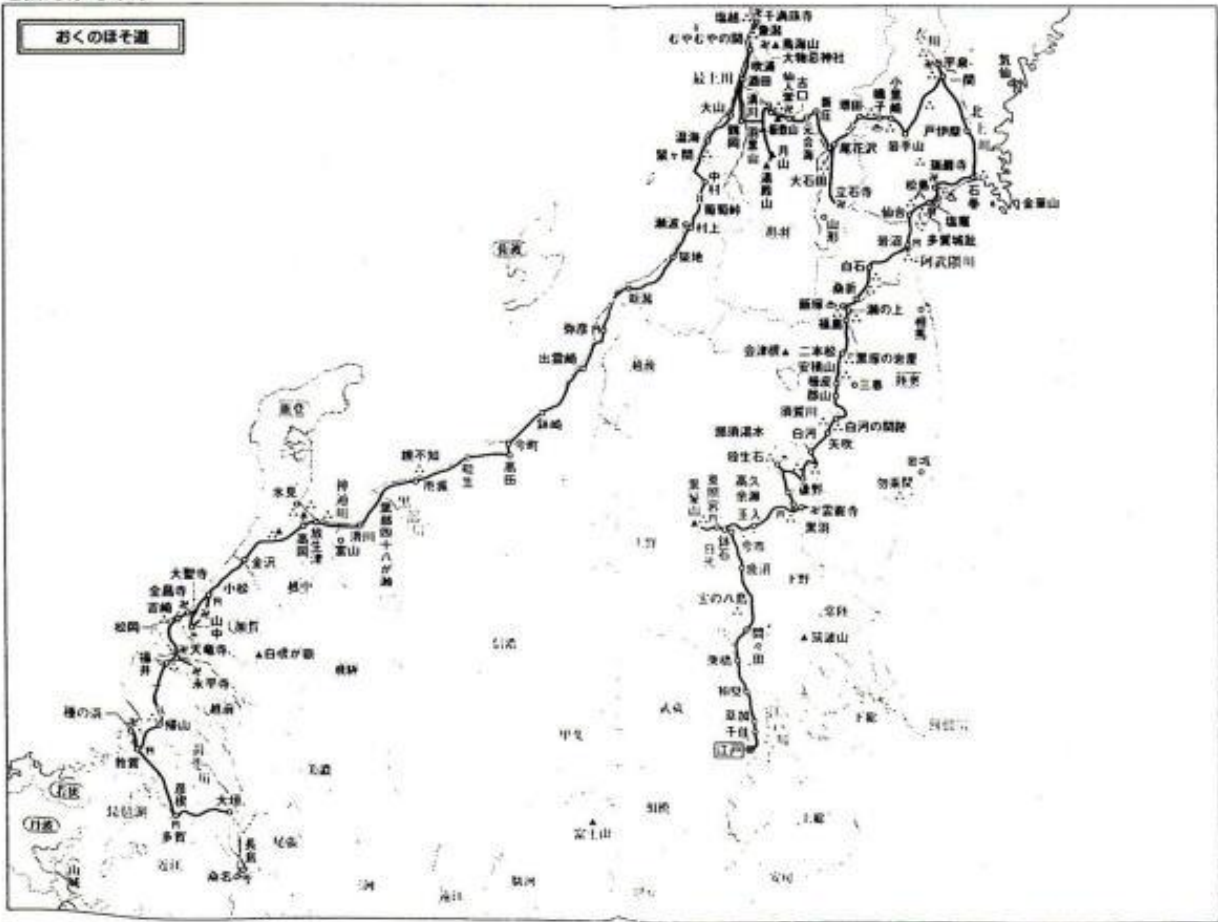


芭蕉の墓 (義仲寺)  
隣に木曾義仲の墓がある

大津宿

〔図1〕

芭蕉紀行足跡図



# 行事予定

2017年9月～2017年11月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月9日(土) 金沢CC 9:30～12:00 一玉縄北条氏の役割と金沢— 青山学院大学 講師 真鍋 淳弥 氏	10月13日(金) 10:00小田原駅西口三省堂前 【探訪】 —小田原城を訪ねて— 探訪実行委員会	11月11日(土) 能見台CC 9:30～12:00 —江戸時代の海運と野島・町屋— 横浜開港資料館 副館長 西川 武臣 氏
寺社を 巡る会	9月7日(木) 集合：江ノ電長谷駅 10:00 テーマ：建築と文学 訪問先：長谷寺、光則寺、旧 山本邸、鎌倉文学館	10月5日(木) 集合：鎌倉駅東口 10:00 テーマ：日蓮と法華経 訪問先：本覚寺、妙本寺、常楽寺 安国論寺、長勝寺等	11月2日(木) 集合：大船駅笠間口 10:00 テーマ：今泉・岩瀬 訪問先：白山神社、称名寺、西念寺、 大長寺等 11月24日(金) 特別バス探訪：多摩地区の寺社巡り 集合：時間・場所未定
古文書を 読む会	9月14日(木) 金沢公会堂リハーサル室 10:00～12:00 宿村森家文書 9月28日(木) 金沢公会堂リハーサル室 10:00～12:00 和宮様御下向	10月12日(木) 金沢公会堂リハーサル室 10:00～12:00 宿村森家文書 10月26日(木) 場所未定 10:00～12:00 和宮様御下向	11月9日(木) 場所未定 10:00～12:00 宿村森家文書 11月23日(木) 場所未定 10:00～12:00 和宮様御下向
ふれあいの 道歩こう会	9月21日(予備日22日) 133回=独自コースNo.51 扇山(1,138m) 山梨県 大月市と上野原市の境	10月26日(予備日27日) 134回=独自コースNo.52 清津峡の紅葉(日本三大渓谷の一つ) 新潟県 湯沢市	11月16日(予備日17日) 135回=独自コースNo.53 明星ヶ岳～明神ヶ岳から大雄山 神奈川県 南足柄市 箱根町
懐かしの 映画を 観る会	9月11日(月) 金沢CC 12:15～ リオ・グランデの砦 9月25日(月) 金沢CC 12:15～ 海街 Diary	10月9日(月) 金沢CC 12:15～ ソフィーの選択 10月23日(月) 金沢CC 12:15～ 邪魔者は殺せ	11月13日(月) 金沢CC 12:15～ 日本のいちばん長い日 11月27日(月) 金沢CC 12:15～ 波止場
浮雲 俳句会	9月24日(日) 9:30～ 能見台CC 第113回例会 テーマ 遊覧船	10月29日(日) 13:00～ ののほな館 第18回金沢区民 俳句大会(吟行)への参加	11月26日(日) 9:30～ 能見台CC 第114回例会 テーマ クルーザー
パソコンを 使い こなす会	9月12日(火) 金沢CC EXCEL 復習講座 — 住所録 — 9月26日(火) 金沢CC EXCEL 復習講座 — 請求書 — 9:30～12:00	10月10日(火) 金沢CC Windows 実用講座 — パソコンを軽くする — 10月17日(火) 金沢CC Windows 実用講座 — パソコンのトラブル対策 — 9:30～12:00	11月14日(火) 金沢CC EXCEL 復習講座 — 即効テクニック — 11月21日(火) 金沢CC Windows 実用講座 — 日本語入力の常識 — 9:30～12:00

## 連絡先:

- ・学習会 090-6176-4543(内田) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 774-3878(北野)
- ・ふれあいの道歩こう会 787-3250(江口) ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿) ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

## 編集後記

梅雨の晴れ間、久し振りに本屋を覗いた。呉座勇一氏の「応仁の乱」が平置きで陳列され、売られていた。三週間ほど前、某新聞書評欄に売れ筋ベスト4にランクされていた。わけもなく嬉しい。遠くない将来「応仁の乱」が定例講座の企画に載ってほしいと思う。目を転じた先の本の帯には「読めますか、書けますか、小学校で習った漢字」と売らん哉の構え。迷わず購入。帰りの車中この本を取りだして目で追ってみる、なかなかどうして手強そう。漢字は油断できない。侮れないと思う。「わ」の会の編集委員2人が替わりましたが会報62号を発行する運びとなりました。一同、出来栄えと評判や如何にと心中複雑なところ。編集後記を書きながらも次々に入ってくる九州豪雨情報に気がなります。そしてその向こうにあるのは入道雲、帰省、花火、甲子園、紛れもない懐かしの夏の風物詩がいっぱいなのだ。(渡辺紀一)

発行日	平成29年(2017)8月5日
発行月	4回(2,5,8,11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	鈴木 秀幸
編集委員	相川 勲 田中 徳明 柴崎 幸治 佐藤 和広 渡邊 紀一 山腰次郎 江口 正彦